

令和6年度 静岡県済生会事業報告書

社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部静岡県済生会

令和7年度第1回支部理事会承認済み（令和7年5月14日（水）開催）

済生会 基本原則

社会福祉法人^{恩賜財団}済生会は、済生勅語にみられる「施薬救療」の精神を承けて済生の実を挙げ、社会福祉の増進を図ることを目的として設立された。

以来、全国にわたり医療機関及びその他の社会福祉施設等を設置して定款に記された事業を行っている。

令和6年度 静岡県済生会 経営方針

済生会の理念と役割の実践

支部理事会を意思決定機関とし、支部長に幅広い権限を一元化した業務執行体制による機動的かつ効率的な組織運営の下、変化する社会経済状況や経営環境に的確に対応しつつ、安定した経営基盤を確立・強化するとともに、「施薬救療」の具現化と社会的使命をより一層発揮するため、令和5年度からの「第3期中期事業計画」にてその着実な推進に努める。

1 済生会ブランドの構築のために

コロナ支援の終了を背景に生活保護申請も増加となる中、「施薬救療」の精神に基づき無料低額診療事業の一層の推進と予断を許さない物価高での生活困窮者への支援事業の充実並びに医療・福祉サービスの積極的な推進を図る。SDGsやソーシャルインクルージョンの理念とも合致するこの事業へ「済生会地域包括ケア連携士」を中心に職員の理解を深め、幅広くかつ積極的に実行することにより済生会のブランドの確立を目指す。

2 わが国最大の医療・福祉団体としての活動と役割

生活に密着した心温まるそして切れ目のない医療・福祉サービスを提供するために必要かつ密接な連携に先導的な役割を果たしていく。特に、今後の我が国のこの分野において最重要課題とされる地域包括ケアの形成に向けて、本支部の有する資源を効果的に活用し、連携を図る取組みを進める。

3 経営基盤の強化

「施薬救療」の精神の具現化等本支部の社会的使命を果たしていくためには健全な経営を確保していくことが不可欠である。医療報酬・介護報酬は、団塊の世代（1947～1949生まれ）が後期高齢者になることから抑制傾向にあり、厳しい経営環境の中でも、支部を挙げて経営基盤の強化に取り組み、本支部事業の持続的発展に努めていく。

4 行政・関係団体・地域住民等外部との連携・協力

地域における医療・福祉の需要に応えるため、行政や社会福祉協議会等の医療・福祉団体、さらには地域住民との連携・協力などの仕組みを形成し、地域ネットワークのキーステーションとしての役割を担う。大規模災害発生時にも、その役割を率先して担う。

5 来る2025年問題に向けて労働力人口の減少が予想される中、良質な人材確保と離職防止を図り、「施薬救療」の精神を実践する「済生会人」の育成に努め、サービスの向上と組織体制の強化を図る。

6 ガバナンスの確立とコンプライアンスの徹底を図るとともに、危機管理体制の万全な備えに一層努める。

目 次

○ 令和6年度事業報告	頁
1 静岡県済生会支部事務局	1
2 静岡県済生会監査室	9
3 静岡済生会総合病院	11
4 静岡済生会療育センター令和	15
5 静岡医療福祉センター成人部	19
6 静岡医療福祉センターライトホーム	21
7 静岡市発達障害者支援センター	23
8 伊豆医療福祉センター	25
9 川奈臨海学園	29
10 静岡市中心身障害児福祉センターいこいの家	33
11 小 鹿 苑	37
12 小鹿なでしこ苑	42
13 静岡市桜の園	45
14 静岡市中心身障害者ケアセンター	49
15 ワーク春日	53
16 静岡済生会看護専門学校	56
17 静岡済生会訪問看護ステーションおしか	58

※各記載事業の記号は次のとおりです。

① ・・・指定管理による事業

② ・・・自治体からの委託事業

基本理念

済生会創立の「施薬救療」の理念の下、静岡県済生会の各施設の連携を図り、その総力を挙げて質の高い医療・福祉サービスを提供し、安心・安全な地域医療・福祉の実現に寄与する。

令和6年度目標及び結果

目標1 安心・安全な地域医療・福祉の増進

- (1) 病院及び各施設と連携したなでしこプラン（生活困窮者支援事業）の積極的推進
目標数：2,425名
- (2) 静岡県済生会地域包括ケア推進方策の検討
 - ・済生会地域包括ケア連携士を中心とした相談会定期開催や地域貢献活動への支援

結果 (1) 令和6年度計画に対しての実績2,952名(2,606名)
 (2) 済生会地域包括ケア連携士を中心に、「医療・福祉なんでも相談会」の開催、
 制服リユース回収への協力、子ども食堂及び出前講座を開催した。

目標2 各施設の円滑かつ安定的な運営支援

- (1) 施設整備や事業推進上の課題解決等に係る支援
 - ・建物の老朽化等ハード面に合わせて業務内容等も含めた施設の将来構想
- (2) 職員研修や人事評価制度等の人材育成の充実・強化
 - ・体系的な職員研修の構築、階層・職種毎の研修の開催
 - ・人事評価制度の運用継続
- (3) 適切な会計経理処理の確保と経営改善のための支援の強化
 - ・公認会計士による指導
 - ・施設長等管理者への会計経理研修会の開催（継続）

結果 (1) 静岡市桜の園は、災害危険区域での事業継続は困難と判断し、施設移転等も含め行政へ要望した。
 「静岡医療福祉センターの今後の方針を検討する会」を設置し、建物等含めた今後の在り方、将来構想を検討する会を立ち上げた。
 (2) 5年度に引き続き「SWAPプログラム（職員交流制度）」を静岡済生会療育センター令和、伊豆医療福祉センター間で実施した。
 階層別研修は、リモートも含めての開催となった。（詳細は3ページ記載）
 採用後半年経過の職員を対象としたフォローアップ面談を実施し、業務へのモチベーションの維持・向上に努めた。
 (3) 施設長など管理者向けに財務管理研修会を実施した。9月12日開催21名受講

目標3 医療・福祉の人材確保

- ・法人スケールを生かした多種多様な人事異動制度（体験異動・交流人事）の促進
- ・身体とこころの不調の早期発見と対応（支部事務局による採用後面談の実施等）

結果 ・新卒採用者を中心に、採用後概ね半年経過の時点でフォローアップ面談を実施し、身体とこころの不調の早期発見に努め、業務へのモチベーションの維持・向上に努めた。
 ・奨学金の貸与は未実施。今後の労働力問題から外国人技能実習生等の管理団体との情報交換を継続的に行った。
 総合病院では特定技能実習生4名を令和7年度から採用となった。

目標4 静岡県済生会事業の積極的広報による市・県民との信頼関係の構築

- (1) 病院及び各施設の情報発信の促進
- (2) 施設間連携の取組みや地域住民との連携・交流事業の情報発信
- (3) 大規模災害発生時の支援拠点としての役割

結果 (1) インスタグラム・LINE 等 SNS を活用し、施設ごとに特色のある情報発信に努めた。

(2) 小鹿なでしこ苑では、CSW（コミュニティソーシャルワーカー）を配置し、地域ミニデイサービス（Sデイ）、サロン等での支援を通じ住民との連携・交流に努めた。

(1) 支部事務局運営事業

社会福祉法人^{恩賜財団}静岡県済生会の法人管理並びに運営事務について、次のとおり事業を行った。

ア 支部理事会の開催・・・8回開催（7）※議案一覧は5～7ページに掲載

	開催日	場所
第1回	令和6年5月14日	静岡済生会総合病院
第2回	令和6年5月14日	〃
第3回	令和6年7月24日	グランディエールブクトーカイ
第4回	令和6年7月24日	〃
第5回	令和6年9月25日	グランディエールブクトーカイ
第6回	令和6年11月27日	静岡済生会総合病院
第7回	令和7年1月29日	グランディエールブクトーカイ
第8回	令和7年3月19日	グランディエールブクトーカイ

イ 諸会議の開催

会議名称	回
・支部事務局会議	14 (17)
・支部執行会議	6 (6)

医療施設及び社会福祉施設等の有機的な連携を図るための連絡調整

会議名称	回
・静岡県済生会地域包括ケア委員会	5 (5)
・施設連携懇話会	0 (1)
・静岡医療福祉センター検討委員会	0 (2)
・静岡医療福祉センターの今後の方針を検討する会	14 (0)

ウ 済生会本部等との連絡調整

会議名称	回
・支部長会議（本部）	2 (2)
・済生会関東ブロック会議（栃木県支部）	1 (1)
・全国済生会支部事務責任者会議（広島県支部）	1 (1)
・済生会障がい者就労支援協議会（愛媛県支部）	1 (1)

※6年度はワーク春日のみ出席

エ 第三者委員会の運営に係る業務・・・1回(1回)

担当部署	開催日	内 容
第1回	令和7年3月17日	会場：小鹿苑 議題：「令和5年度後期以降の苦情案件の処理について」 静岡済生会療育センター令和1件 静岡市桜の園1件 計2施設2件 ※法人ホームページに記載予定

オ 職員研修事業の実施

担当部署	開催日	内 容
企画課 第1回	令和6年6月21日	「業務新人職員研修」 ・済生会人になった皆さんへ ・なでしこプランとソーシャルインクルージョン 10施設16名(8施設17名)
企画課 第2回	令和6年8月23日	「相談業務職員研修」 ・法人内連携 協働を目指す 12施設24名(12施設16名)
企画課 第3回	令和6年10月25日	「業務中堅職員研修」 ・おもてなしマインドとスキル 8施設17名(11施設17名)
企画課 第4回	令和6年12月11日	「業務主査・主任職員研修」 ・リーダーシップ・マネジメント研修 10施設13名(9施設10名)
企画課 第5回	令和7年2月14日	「業務副主任職員研修」 ・サービスの質の確保に向けて ～福祉サービスのコンプライアンスについて理解する～ 10施設13名(9施設14名)
財務課	令和6年9月12日	「財務管理管理者向け財務管理研修会」 13施設21名(15施設19名)

カ 機関誌定期発行による情報発信 「しぶだより」年2回の発行

キ 法人の管理運営に係る業務(会計事務所等による会計監査及び監事監査)
対象・・・全施設

	開催日	対象
会計事務所および監査人による会計監査	令和6年4月18日、19日、22日	全施設
監事監査	令和6年4月25日	全施設
現地監査	令和6年8月28日	・なでしこ保育園 ・小鹿なでしこ苑 ・小鹿苑 ・ワーク春日

・行政機関(静岡県、静岡市)による指導監査への立会い

(2) 生活困窮者支援事業

なでしこプラン（生活困窮者支援事業）及びなでしこプラン以外の公益的活動を病院、各施設とともに推進、展開した。※8ページ参照

(3) 静岡県済生会職員共済制度事業

職員及び家族の福利厚生向上を図るため、各種給付を実施、実績は次のとおりであった。

事業名	令和6年度		令和5年度	
	人数(名)	決算額(円)	人数(名)	決算額(円)
退職共済事業給付事業	25	78,527,895	20	70,749,477
医療共済給付事業	5,317	37,590,099	5,695	40,347,550
職員共済制度資金貸付事業	0	0	0	0

(4) 施設等支援事業

ア 組織運営上の課題を抱えた施設の将来構想検討に係る支援

- ・静岡市桜の園・・指定管理期間後における現地での事業継続は困難と判断し、静岡市担当部に対して申し出て今後の対応について協議を行った。
- ・静岡市心身障害者ケアセンターの指定管理更新申請・・4期20年に亘る実績とノウハウから醸成された利用者様との信頼関係を生かし、さらに良質なサービスの提供を目標に掲げ、申請。12月プロポーザル、同月指定管理者候補者として選定、7年3月に静岡市議会に指定管理者としての議決を得た。
- ・小鹿苑・・給食業務の委託業者事業撤退に伴い、調整に努めた。
法人内施設間連携による人員配置から、委託から直営業務に切り替え給食の提供に努めた。

イ 事務業務改善の推進 給与計算等共通業務の集中処理化を検討する。

障害者施設間の事務処理における共通作業等を確認し、集中処理を実施した場合の問題点を掘り起こした。

令和6年度支部理事会議案及び報告事項について		
第1回 令和6年5月14日（火）		
静岡済生会総合病院 地下1階 講堂		
第1号議案	社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会支部理事の委嘱について	承認
報告事項ア	令和6年度支部役員人事について	報告
報告事項イ	令和6年度新任施設長の紹介について	報告
第2回 令和6年5月14日（火）		
静岡済生会総合病院 地下1階 講堂		
第1号議案	令和5年度川奈臨海学園拠点の積立資産について	承認
第2号議案	令和5年度社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会事業報告について	承認
第3号議案	令和5年度社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会決算報告について	承認
第4号議案	静岡医療福祉センター成人部各事業における運営規程の一部改正について	承認
第5号議案	小鹿苑各事業における運営規程の一部改正について	承認
第6号議案	小鹿なでしこ苑各事業における運営規程の一部改正につ	承認
報告事項ア	令和5年度下半期資金運用状況報告について	報告
報告事項イ	静岡済生会総合病院長期設備整備資金借入結果について	報告
報告事項ウ	令和6年度静岡県済生会支部理事会開催予定について	報告
報告事項エ	報道等で見える静岡県済生会	報告
第3回 令和6年7月24日（水）		
グランディエールブクトーカイ 4階 シンフォニー		
第1号議案	社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会支部理事の委嘱について	承認
第4回 令和6年7月24日（水）		
グランディエールブクトーカイ 4階 シンフォニー		
第1号議案	社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会支部会長候補者の選任及び推薦について	承認
第2号議案	令和6年度静岡県済生会事業計画の一部改訂について	承認
第3号議案	静岡医療福祉センター成人部運営規程の一部改正について	承認
第4号議案	令和6年度静岡県済生会施設整備計画の変更について	承認
第5号議案	積立金及び積立資産の目的外取り崩しについて	承認
第6号議案	有価証券売却の承認について	承認
第7号議案	社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会給与規程の一部改正について	承認
第8号議案	社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会有期契約職員就業規則及び無期転換職員就業規則の一部改正について	承認
報告事項ア	静岡県済生会支部理事の委嘱について	報告
報告事項イ	報道等で見える静岡県済生会	報告

第5回 令和6年9月25日（水）		
グランディエールブクトーカイ 4階 ワルツ		
第1号議案	令和6年度静岡県済生会収支予算の補正について	承認
第2号議案	伊豆医療福祉センター医療型障害児入所施設運営規程の一部改正について	承認
第3号議案	指定管理者の指定に係る申請について	承認
報告事項ア	静岡市桜の園 台風10号の報告について	報告
報告事項イ	有価証券の売却について	報告
報告事項ウ	報道等で見ると静岡県済生会	報告
第6回 令和6年11月27日（水）		
静岡済生会総合病院 地下1階 講堂		
第1号議案	静岡済生会総合病院短期運営資金借入金の承認について	承認
第2号議案	静岡済生会総合病院長期設備整備資金借入の承認について	承認
第3号議案	令和7年度静岡県済生会施設整備計画について	承認
報告事項ア	静岡済生会総合病院半期決算報告について	報告
報告事項イ	令和6年度上半期資金運用状況報告について	報告
報告事項ウ	令和6年度指導監査結果に係る是正・改善計画について	報告
報告事項エ	報道等で見ると静岡県済生会	報告
第7回 令和7年1月29日（水）		
グランディエールブクトーカイ 4階 シンフォニー		
第1号議案	静岡済生会総合病院基本財産の処分について	承認
第2号議案	有価証券売却の承認について	承認
第3号議案	令和7年度社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会事業計画について	承認
第4号議案	令和7年度社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会収支予算について	承認
第5号議案	令和7年度社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会職員定数について	承認
追加議案1	静岡済生会総合病院長期設備整備資金借入期間変更の承認について	承認
追加議案2	社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会施設長候補者の選任及び推薦について	承認
報告事項ア	報道等で見ると静岡県済生会	報告
第8回 令和7年3月19日（水）		
グランディエールブクトーカイ 4階 シンフォニー		
第1号議案	令和7年度静岡県済生会事業計画の一部改訂について	承認
第2号議案	令和7年度静岡済生会総合病院病児保育事業の収支予算について	承認
第3号議案	社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会職員定数の一部改正について	承認
第4号議案	静岡済生会総合病院短期運営資金借入の承認について	承認
第5号議案	社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会規則の一部改正について	承認
第6号議案	社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会組織規程の一部改正について	承認

第 7 号議案	社会福祉法人 ^{恩賜 財団} 済生会支部静岡県済生会給与規程の一部改正について	承認
第 8 号議案	社会福祉法人 ^{恩賜 財団} 済生会支部静岡済生会職員の育児及び介護休業等に関する規程の一部改正について	承認
第 9 号議案	静岡済生会療育センター令和処務規則の一部改正について	承認
第 10 号議案	相談支援センター済生会（指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業）の運営規程の制定について	承認
第 11 号議案	静岡済生会療育センター令和保育所等訪問支援運営規程の制定について	承認
第 12 号議案	静岡医療福祉センター成人部各事業における運営規程の一部改正について	承認
第 13 号議案	静岡市桜の園各事業における運営規程の一部改正について	承認
第 14 号議案	静岡市中心身障害児福祉センターいこいの家運営規程の一部改正について	承認
第 15 号議案	社会福祉法人 ^{恩賜 財団} 済生会支部静岡県済生会施設長等の任免について	承認
第 16 号議案	社会福祉法人 ^{恩賜 財団} 済生会支部静岡県済生会第三者委員の選任について	承認
報告事項ア	令和 6 年度社会福祉施設指導監査等の実施結果について	報告
報告事項イ	指定管理者の指定について	報告
報告事項ウ	静岡済生会総合病院長期設備整備資金借入結果について	報告
報告事項エ	報道等で見ると静岡県済生会	報告

第4次なでしこプラン(令和6年度)

令和6年度目標	令和6年度実績
2,425	2,952

施設名	事業名	令和6年度		
		目標	実績	
静岡済生会総合病院	社会福祉施設等健康診断支援事業	900	974	
	保護観察所等刑余者健診・相談事業	10	4	
	児童・ひとり親家庭等健康診断・相談事業	30	25	
	生活困窮者等健康診断・相談事業	100	64	
	外国人等健康診断・相談事業	100	91	
	生計困難者等に対する日用品及び交通費等の支援事業	15	9	
	外国人医療通訳支援事業	200	148	
	長期療養者就労支援事業	15	17	
	無料健康相談事業	100	100	
	支部内各施設における無料健康相談	10	0	
	無料インフルエンザ予防接種事業	10	6	
	周知・啓発活動	220	133	
静岡済生会療育センター令和	障害児療育講座	70	50	
静岡医療福祉センター成人部	無料健康相談	4	2	
伊豆医療福祉センター	無料健康相談	15	29	
川奈臨海学園	保護観察対象者等が行う社会貢献活動の受入れ	16	0	
	施設退所者の健康診断補助事業	2	0	
小鹿苑	高齢者等緊急受入れ事業	1	3	
	周知・啓発活動	60	330	
小鹿なでしこ苑	認知症カフェ(等(ウエスの会含む)	120	96	
	介護相談	6	31	
	外国人通訳支援	3	0	外国人診療時の通訳支援
	※学生服バンク事業	10	228	※法人内各施設地域包括ケア連携士及び関係各団体との協働事業
	※子ども食堂事業	360	342	
	※出前授業事業	30	247	
静岡市桜の園	障害者緊急受入れ事業	2	0	
	少年院在院者奉仕活動実習受け入れ事業	16	23	
なでしこプラン対象者数合計		2,425	2,952	

2 静岡県済生会監査室

コンプライアンスの遂行と説明責任に対する社会的要請が高まる中で、社会福祉法人においても内部統制システムの整備と適切な運用が強く求められており、これまで以上に業務チェック機能を果たす内部監査の重要性が高まっている。

監査室は、引き続き関係法令、通知等に基づき施設の事務処理及び運営等が適正に行われているかどうかを明らかにし、必要な指導及び是正改善等を行うために下記の監査を実施した。

(1) 社会福祉法人^{恩賜財団}済生会支部静岡県済生会監査規程に則って次の監査を実施

- ①定期監査 時期及び内容を定めて計画的に実施。
- ②決算監査 毎会計年度終了後、決算役員会前に実施。

・定期監査

施設名	監査日
川奈臨海学園	令和6年7月1日
なでしこ保育園	令和6年10月11日
静岡市桜の園	令和7年1月8日
小鹿なでしこ苑	令和7年1月 (書面監査)
小鹿苑	
静岡済生会療育センター令和	
静岡医療福祉センター成人部	

・決算監査

施設名	監査日
会計事務所による会計監査	令和6年4月18日、19日、22日
監事監査	令和6年4月25日

(2) 行政機関等による指導監査及び運営指導等への立会

・静岡県・静岡市による指導監査

施設名	監査日	実施機関
川奈臨海学園	令和6年7月12日	静岡県
なでしこ保育園	令和6年11月5日	静岡市
静岡市桜の園	令和7年1月15日	静岡市
小鹿苑	令和7年1月30日	静岡市
小鹿なでしこ苑	令和7年1月31日	静岡市
静岡済生会療育センター令和	令和7年2月5日	静岡市
静岡医療福祉センター成人部	令和7年2月5日	静岡市

・静岡県・静岡市による運営指導

施 設 名	監 査 日	実施機関
静岡済生会療育センター令和	令和 6 年 8 月 27 日	静岡市
小鹿なでしこ苑	令和 7 年 1 月 31 日	静岡市
ワーク春日	令和 7 年 2 月 6 日	静岡市
静岡市心身障害者ケアセンター (障害者生活支援センター城東)		
静岡済生会療育センター令和		
静岡市桜の園		
静岡県心身障害者ケアセンター		
静岡市心身障害児福祉センター「いこいの家」	令和 7 年 2 月 18 日	静岡県
伊豆医療福祉センター		

・労働基準法監督指導

施 設 名	監 査 日	実施機関
静岡済生会総合病院	令和 6 年 12 月 3 日	静岡労働基準監督署

・静岡市保健所立入検査

施 設 名	検 査 日	実施機関
静岡済生会総合病院	令和 6 年 9 月 26 日	静岡市保健所

(3) 支部監事による施設実地監査への立会

施 設 名	監 査 日
なでしこ保育園	令和 6 年 8 月 28 日
小鹿なでしこ苑	
小鹿苑	
ワーク春日	

3 静岡済生会総合病院

基本理念

私達は暖かい思いやりの心で質の良い医療・福祉サービスを実践します。

令和6年度目標及び結果

目標1 「高度急性期」を担う病院 「がんトータルケア」・「周産期医療」・「心血管疾患治療」の推進

強固な経営基盤の構築

- ・ 高度急性期を担う病院として、医療ニーズに合った適正な人員配置・医療機器の整備に努める。
- ・ 新入院患者数、手術件数、紹介患者数、逆紹介患者数の増加に努める。
- ・ 平均在院日数の適正化（DPC期間Ⅲ・Ⅲ超え患者数の減少）に努める。
- ・ 医療材料費や医薬品費、業務委託費や保守料など、各項目を精査し細かな支出削減に努める。
- ・ 長期的視野に立った施設設備の更新及び活用による費用の削減に努める。

新入院患者確保に向けた取り組みの確実な実行

- ・ がんトータルケア:「治す医療」と「支える医療」の充実を目指す。
- ・ 周産期医療:助産師の確保を進め、新入院患者増を図る。
- ・ 心血管疾患治療:手術数・検査数の増加に努める。
- ・ 診療所訪問や地域への各種情報の発信等、積極的な広報活動を実行する。

結果 高度急性期医療の充実、提供等に努め、新入院患者は増加した。また、手術件数や平均在院日数など各種指標も改善した。他方、支出に関しては新たな取り組みを開始したものの、物価の高騰や人件費増などの影響もあり削減には至っていない。

目標2 患者さんに優しい病院

- ・ 療養環境の充実、駐車場整備、会計待ち時間の短縮、接遇の質の向上などを進め、CS向上を目指す。
- ・ 入院支援センター機能を充実させ、患者支援体制の充実を図る。
- ・ 新興感染症対策及び対応の一層の強化を図る。

結果 入院療養環境の充実を図るため、4人室の一部を有償4人室へ改修し、年度内に稼働を始めた。新たに駐車場を確保し、運用を開始、「ゆずりあい駐車場」を整備するなどCS向上へ取り組んだ。また、患者サポートセンターが稼働し多職種連携による患者支援体制が構築できた。

目標3 ソーシャルインクルージョンの根付いたまちづくりへの寄与

- ・ 障害者雇用率 2.5%以上を目指す。
- ・ 無料低額診療、生活困窮者支援事業を推進する。
- ・ 医療・福祉施設に限らず、大学や企業など地域における様々な機関との協働を行う。

結果 障害者雇用率2.9%を達成した。近隣大学や企業主催の外部イベントへ積極的に参加し、当院の認知度向上及びソーシャルインクルージョンの根付いたまちづくり

に繋がる取り組みを実施した。済生会フェア等の院内イベントでは、企業やB型就労支援事業所、ボランティア団体の出展をいただき、新規に院内コンサートを開催するなど、新たなつながりを持つことができた。

目標 4 職員が「働きやすい」病院

- ・ 医療ニーズと確保人員とのバランスを図り、職員が働きたくなるような職場環境整備に努める。
- ・ 標準化、効率化を図るため、医療DX導入に積極的に取り組む。
- ・ 職員の健康確保支援や福利厚生の実施を図る。
- ・ 働き方改革へ適切に対応する。
- ・ 貢献度評価制度により、適正な評価体制を構築する。

結果 ウェルネス（職員健康推進）センターを新設し、職員からの各種相談に対応できる体制を整え、健康確保支援や福利厚生の実施に努めた。また、業務改善の取り組みや、働き方改革への対応を進め働きやすい病院づくりを進めた。医師を含む貢献度評価制度が稼働し、賞与への反映を実施した。

静岡県中部地域の中核病院（昭和23年6月1日開設）として、入院機能を中心とする診療の充実に努めるとともに、救命救急センター、周産期センター、地域災害医療センター、健康管理センターのほか、地域福祉サービス事業等の運営、活動を積極的に進め、地域住民の疾病治療、予防、健康の増進を図った。

地域連携を一層推進するほか、医療の質及びサービスの向上を図り急性期病院として地域に更に貢献できる医療の提供を目指した。

なお、病院経営については、新入院数及び入院単価の向上、医療従事者の確保、支出削減に努め、安定した財源確保を図るとともに、職員の患者、連携医へのサービス向上等を進めたものの、状況の好転には至らなかった。

（1）病院運営事業

病床の効率的な運用により、各診療科の安定した診療体制を確保した。救命救急、周産期、心血管疾患等地域のニーズに対応するとともに、7対1看護基準の維持により、安心・安全な看護体制を維持した。新入院数は前年度を超えるものの、在院日数の短縮により一日平均入院患者数は減少した。

区 分	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
許可病床数	521 床	521 床	521 床
一日平均入院患者数	390 名	376 名	379 名
一日平均外来患者数	930 名	901 名	922 名

※静岡済生会療育センター令和除く

(2) 救命救急センター・地域災害医療センター事業等

救急患者総数は目標に及ばなかったが、救急搬送数は前年同程度、入院患者数は増加した。また、災害派遣医療チーム(DMAT)の研修に積極的に参加し、大規模災害発生時の医療チーム緊急派遣に機動的に応じられるよう努めた。

区 分	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
救急患者数	16,000名	13,688名	15,004名
うち入院患者数	4,300名	4,326名	4,205名

(3) 臨床研修事業

臨床研修病院として、研修医を受け入れ、各科指導医による臨床実務を通じて基本的知識、技術の習得などの臨床研修を行い医師としての資質向上に努めた。マッチングではフルマッチを果たした。

区 分	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
受入研修医数	24名	24名	24名

(4) 医師・看護師確保対策事業(院内保育所)

医師・看護師の離職防止と潜在医師・看護師の再就職を促進するために、なでしこ保育園の充実運営に努めた。

区 分	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
事業所内保育事業(共同枠)	90名/日	53名/日	52名/日
〃(地域枠)	20名	17名	20名/日
病児保育事業	延べ30名	延べ10名	延べ10名
放課後児童健全育成事業	9/日	11名/日	12名/日

(5) 地域福祉サービス事業

社会福祉法人が運営する総合病院として、各医療福祉相談活動を通じ、地域住民の疾病治療、予防、健康の増進など社会福祉の向上に努め、患者支援活動を積極的に進めた。

区 分	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
医療相談	8,000件	8,814件	7,841件
心理相談	4,500件	4,362件	3,975件

(6) 無料低額診療事業

生計困難者を対象に、無料または低額な料金での診療、無料の健康相談、保健教育等を行った。診療活動においては、生活保護患者以外の生計困難者について関係機関と連携の上、対象者への支援拡大に努めた。

区 分	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
実施率	10.0%	6.7%	6.1%
対象者延べ数	37,200名	25,650名	23,825名

(7) 生活困窮者支援事業

無料低額診療対象者のみならず、生活困窮者全般を対象に、無料健康相談や無料または低額な料金での検診等を行った。無料低額診療事業とあわせて、支部内の他施設も含め、地域の関係機関・団体や当事者とともに啓発活動、教育活動の他、地域での福祉的課題について積極的に取り組みを行った。

主な対象者: 刑余者（刑務所などを出所した者）、DV被害者、ホームレス、単身高齢者、就労困難者への支援など

区 分	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
対象者延べ数	1,710 名	1,571 名	1,708 名

(8) 健康管理センター事業

地域住民及び福祉施設入所者、一般事業所従業者の疾病予防、健康の保持増進に応えるため、人間ドック・各種健康診断を積極的に実施した。

区 分	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
人間ドック	2,400 名	2,054 名	2,234 名
生活習慣病予防健診等	14,800 名	14,621 名	13,467 名

(9) 地域開放事業

将来の生き方や職業の選択について考えている中学生、高校生を対象として医療、保健、福祉への理解を深めるため職場体験、ナーススクールなどを実施した。病院広報については、済生会フェア、市民公開講座を実施した。

区 分	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
市民公開講座	4 回	4 回	6 回
職場体験(中学生参加人数)	40 名	39 名	47 名
高校生ナーススクール	80 名	72 名	76 名

4 静岡済生会療育センター令和

基本理念

私たちはノーマライゼーション実現のため、あたたかな心をもって皆さんを応援いたします。

令和6年度目標及び結果

目標1 経営の安定化

- ・関係機関と連携し、入院（入所）児（者）の確保に努める。
- ・医師、直接処遇職員の確保に努める。

結果

- ・一日平均入院（入所）児（者）数 30.4 名 昨年度より 2.4 名減。目標の 45 名を大きく下回る結果となった。
- ・職員の確保については看護師採用 1 名、退職 0 名、支援員は採用 1 名、退職 1 名と厳しい状況にある。

目標2 適切な支援の提供

- ・年齢および特性等に応じた支援を計画する。
- ・利用者が施設内で楽しく生活の質が向上する日中活動を実施する。

結果

- ・児童、成人それぞれの日中活動（施設内での活動）を計画的に行った。
- ・個人の希望による外出の実施。
- ・季節に応じた行事の実施、ボランティアによる音楽などの訪問の受け入れ
- ・セイコーエプソンが実施する社会貢献活動である「ゆめ水族園」からプロジェクターによる映像体験装置（ファンタスカー）を借用して子どもからおとなまで映像と音楽による刺激を楽しんだ。

目標3 職員の質および意識の向上

- ・継続的に院内感染対策、医療安全対策、虐待防止に取り組む。
- ・組織を改編し福祉職は療育支援課の所属とする。福祉専門職として意識の向上を図る。
- ・昨年度から引き続き SWAP プログラム職員交流制度を支部内他施設との間で実施しお互いの施設を経験し支援の質の向上につなげる。

結果

- ・虐待防止・身体拘束・食中毒の研修実施、定期的に委員会を開催した。
- ・組織を改編し福祉職は療育看護科から療育支援課の所属とした。積極的に外部研修（国立心身障害児総合医療療育センターが実施する重心児者の療育に携わる職員に対する研修など）に参加し意識の向上と技術の向上に努めた。
- ・SWAP 研修を伊豆医療福祉センターと実施した。看護師 1 名、支援員 1 名の受け入れと派遣を行った。また 2 名の職員が伊豆医療福祉センターの防災訓練の見学を行った。

目標4 利用者・家族・施設との交流を図る

- ・懇談会を年 2 回実施し、ご家族と職員の意見交換の場を設ける。
- ・毎月の個人別のお便り、インスタグラムで施設の様子を発信する
- ・家族が参加できる行事を企画し実施する。保護者との関係を強める

結果

- ・懇談会を年 2 回実施した。1 回は外部講師を招いた勉強会を開催した。
- ・療育センター祭り「ハレ☆ばれカーニバル」を開催、家族との交流を図った。また、来場を家族に限定せず地域の方々にも開放した。

- ・静岡市に本拠地を置くプロバスケットチーム「ベルテックス静岡」の選手2名の訪問がありご家族も参加し一緒にボールに触れ、シュート体験を行った。
- ・個人別お便り毎月発行、広報誌年3回発行、Instagramによる施設の情報発信、メール配信システムによる家族への連絡を発信した。

(1) 医療型障害児入所施設事業（一種事業）（定員 57 名）

障害福祉サービス事業（療養介護）（二種事業）（定員 57 名）

入所児者数は、保育・教育機関の環境の充実、交通網の発達による在宅志向の高まりなどから減少が続いていたため、実態に合わせ主たる入所者の種別を重症心身障害児に変更し、受入れの促進を図った。

令和6年度は「重症心身障害児(者)を守る会」の施設見学を通じて施設を周知し、短期入所、療養介護入所の利用につなげた。

入所児者確保のため人工呼吸器装着者の受け入れ準備を行い、1名の入所を受け入れた。

6年度は新入院（入所）20名（児入所12名、療養8名）、退院（退所）15名（児入所14名、療養1名）。児入所は夏休み等の長期休暇を利用して集中的にリハビリを受けることを目的した入院、療養介護は長期利用を目的とした入院となっている。

療養介護は、6年度は8名が入所した。その後も希望者は増加している。7年度は6月までに4名の入所が決まっており、今後も入所者確保のために相談支援事業所等に当センターのPRと入所対象者紹介依頼の営業活動を行う。

今後の施設の在り方については、当センターを含めた静岡医療福祉センター検討委員会で引き続き検討している。

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
一日平均入院(入所)児(者)数	45 名	30.4 名	32.8 名
一日平均外来患者数	140 名	115.2 名	120.1 名

疾病別人員

令和6年4月1日～令和7年3月31日

疾病別	年間実人員	構成比
脳性麻痺	23 名	53.4%
進行性筋・神経疾患	4 名	9.3%
二分脊椎	2 名	4.7%
その他	14 名	32.6%
計	43 名	100.0%

月別入所者数

	初日在籍者数	延べ人数
6年 4月	29 名	850 名
5月	28 名	823 名
6月	28 名	830 名
7月	29 名	927 名
8月	34 名	1,111 名
9月	31 名	921 名
10月	30 名	926 名
11月	30 名	874 名
12月	30 名	923 名

7年 1月	30名	940名
2月	33名	931名
3月	34名	1053名
合 計	366名	11,109名
月平均	30.5名	925.7名
一日平均		30.4名

(2) 障害福祉サービス事業（短期入所）（二種事業）

在宅の障害児（者）及びその家族の福祉の向上、支援を目的としている。昨年度9月から受け入れを再開し2年目となる。利用希望は多く土日など利用希望が多い日は4名となる日もある。令和6年5月に施設内で感染症が発生したため利用受け入れを停止した期間もあったが5年度の0.2名から1.8名に増加した。

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
年間利用延べ人数	1,000名	663名	81名
一日平均利用人数	2.7名	1.8名	0.2名

(3) 障害児相談支援事業・特定相談支援事業（二種事業） ㊦

ア 静岡市障害者等相談支援事業 ㊦

静岡市における相談支援事業指定施設として、在宅福祉を担当する職員を配置し、在宅の障害児（者）及び保護者に対して地域生活での具体的な相談、指導、サービスの調整を実施した。

イ 障害者等相談支援事業（虐待相談等含む） ㊦

- ・相談支援事業として総合的な在宅サービスの調整、援助等

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
地域生活の支援・助言	2,100件	2,606件	2,575件

ウ 障害児等療育支援事業 ㊦

(ア) 在宅支援訪問療育等指導事業

- ・派遣職員 医師、PT、OT、ST、心理士等
- ・活動先 障害児保育実施園、重度障害児（者）訓練ホームの巡回、在宅訪問

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
相談等延件数	45名	37名	41名

(イ) 在宅支援外来療育等指導事業

- ・個別相談、療育音楽、グループ保育活動

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
相談指導延件数	45名	0名	10名

(ウ) 施設支援一般指導事業

- ・障害児保育研修、発達フォローアップ教室、自主研修会等の指導等

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
支援回数	50 件	0 件	0 件

エ 指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業

・利用者の相談支援及びサービス利用計画書の作成等

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
利用計画書作成件数	120 件	128 件	115 件

(4) 日中一時支援事業（公益事業）㊦

医療施設機能を提供しながら在宅の障害児（者）の相談支援や施設短期入所の受け入れなど、地域に住む家族の生活への具体的な支援を目的としている。

短期入所の空席利用となっている。6年度は利用希望者が無かった。

(5) その他の事業（研修室・会議室等運営事業）

医療・社会福祉事業に携わる者の研修等の便宜に供するため、会議室等の管理運営事業を実施。

ア 会議室、ミーティング室利用状況

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
会議等利用人数	600 名	633 名	726 名

イ 宿泊施設利用状況

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
宿泊施設利用人数	0 名	12 名	5 名

(6) その他の事業（なでしこプラン）

事業名 障害児療育講座（健康医療相談）

主に施設利用者・家族を対象に無料の相談会を療育講座開催に合わせて行った。

6月から2月の間に5回実施した。参加者が減少しているため7年度は館内ポスター掲示、SNSでの広報に加え外部施設へのポスター掲示の依頼、QRコードでの参加受付を行い、参加者希望者を広く募りたい。

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
受講者数	70 名	50 名	61 名

基本理念

・安心して健康で心豊かな生活ができるよう支援します。

令和6年度目標及び結果**目標1 良質かつ安心・安全なサービスの提供に努める**

利用者の意向、障害の特性その他の事情を踏まえた個別支援計画に基づき、常に利用者の立場に立って適切かつ効果的なサービスを提供する。

結果 研修等への積極的な参加による職員の資質向上や家族・後見人・相談事業所等との連携強化を図った。

また、入所者の高齢化・重度化に伴う勤務体制の見直しを行い、令和4年度から早番制度導入を行ったほか、支援区分に対応した職員配置が行えるよう職員定数を一部改正した。また、令和5年度から土・日・祝日における看護体制の整備を図るなど、利用者に対する支援の充実に努めた。

目標2 地域との交流を深める

施設外の催し・大会等積極的に参加し、利用者の視野を広げると共に、地域に施設を理解してもらう。そして地域防災に参加協力し、地域との協力体制構築を目指す。

結果 わかふじスポーツ大会の参加や西豊田学区における地域防災訓練に参加したほか、静岡県済生会地域包括ケア委員会が行う「なんでも相談会」、「子ども食堂」に参加するなど、地域との交流を深めた。

目標3 安定した経営を目指す

相談支援事業所等と連携し、利用者の開拓に努め、入所者を確保する。

(目標) 年間 延べ 17,500 名

結果 令和6年8月から入所者1人当たりの報酬単価増額を図るため、定員を60名から50名に変更した。

また、5年度から営業活動に力を入れ病院・相談支援事業所・地域包括支援センター等を訪問し入所者の確保に努めた結果、昨年度を超える新規入所者を確保することができた。しかし入所者の高齢化・重度化による病気等での入院増加や退所者も多く、年間延べ利用者数、一日平均在所者数は昨年同比減少した。

(1) 障害者支援施設(一種事業)「施設入所支援 50 名、生活介護 50 名」

障害者総合支援法による障害者支援施設として、日中は「生活介護」、夜間は「施設入所支援」の2事業を行った。

・施設入所支援

・ 定 員	50 名 (60 名)
・ 年間入所者数	4 名 (3 名)
・ 年間退所者数	4 名 (6 名)
・ 年間延在者数	16,208 名 (16,503 名)
・ 一日平均在所者数	(目標 48 名) 44.4 名 (45.1 名)

疾病別人員

令和6年4月1日～令和7年3月31日

病 名	年間実人員（名）	構成比（％）
脳 卒 中	22	46.8
その他の脳原性疾患	9	19.2
脳 外 傷	4	8.5
そ の 他	12	25.5
計	47	100.0

月別生活介護・入所者数

		生活介護						施設入所	
		入所		通所		合計			
月	月初入所人数	利用人数	延べ利用数	利用人数	延べ利用数	利用人数	延べ利用数	利用人数	延べ利用数
4	45	44	938	7	47	51	985	44	1,278
5	45	44	999	7	50	51	1,049	44	1,345
6	44	44	880	7	49	51	929	44	1,320
7	44	44	993	4	6	48	999	44	1,335
8	44	44	966	7	49	51	1,015	44	1,362
9	44	44	917	8	53	52	970	44	1,310
10	44	47	1,031	8	56	55	1,087	47	1,390
11	47	47	979	7	39	54	1,018	47	1,398
12	47	47	1,009	7	33	54	1,042	47	1,425
1	46	46	1,037	7	33	53	1,070	46	1,397
2	45	45	900	7	34	52	934	45	1,260
3	45	45	942	6	15	51	957	45	1,388
計			11,591		464		12,055		16,208

・生活介護

- ・定 員 生活介護 50名（60名）
- ・開所日数 261日（260日）
- ・年間延利用者数 12,055名（12,302名）
- ・一日平均利用者数 46.19名（47.32名）

（２）福祉サービス事業（短期入所）（二種事業）（空床）

指定障害福祉サービス事業所として短期入所事業を空きベッドの利用により実施した。

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
年間利用延べ人数	280名	280名	390名
一日平均利用人数	0.8名	0.8名	1.1名

6 静岡医療福祉センターライトホーム

基本理念

三療免許者に対し、必要な技術及び生活指導を行い、利用者の自立更生をはかる。

令和6年度目標及び結果

目標1 経営の安定化

- ・利用者（施術者）の確保
- ・利用客の確保 目標 500 人（利用者施術分）

結果

- ・利用者（施術者）は年度当初は3名在籍
入所1名 退所0名。前年度は1.05名/日、今年度は1.08名/日とほぼ変わらず目標の2名には及ばなかった。
- ・利用客は521名と目標を上回った。

目標2 施設の広報活動

- ・済生会フェアへの参加
- ・地域の催し物への参加
- ・視覚特別支援学校からの見学受け入れ

結果

- ・済生会フェアマッサージ体験ブース
令和6年6月8日（土）来場者71名
- ・地域の催し物への参加
「2024 ビジョンサポート機器展 IN 静岡」マッサージ体験ブース
令和6年12月1日（日）静岡県総合社会福祉会館 来場者38名
「こころのバリアフリーイベント」マッサージ体験ブース
令和7年3月15日（土）青葉シンボルロード 来場者55名
- ・「静岡県済生会地域包括ケア委員会なんでも相談会」マッサージ体験ブース
令和6年9月18日（水）来場者4名
- ・視覚特別支援学校からの見学受け入れ
令和6年7月12日（金）
目的：施設の概要や仕事を知るとともに進路選択の参考にする
内容：施設の見学、研修メニューの紹介
対象者：静岡視覚特別支援学校 生徒2名 教員1名
配布資料：ライトホーム研修メニュー一覧、パンフレット

（1）利用者指導事業（定員20名）

利用者の技術（鍼・灸・マッサージ）及び生活訓練動作の指導を行い、自立生活ができるよう養成に努めた。

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
一日平均通所者数	2名	1.08名	1.05名

疾病別人員（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

疾病分類	通所実人員	構成比
先天性視覚障害者	0名	0%
中途視覚障害者	4名	100%
計	4名	100%

月別在籍者数

年月	通所者延べ人数
6年 4月	16名
5月	19名
6月	22名
7月	21名
8月	15名
9月	19名
10月	22名
11月	18名
12月	26名
7年 1月	27名
2月	26名
3月	26名
合計	257名
月平均	21.4名
一日平均	1.08名

(年間通所日数 237日)

(2) その他

＊個人研修会の実施 令和6年9月20日(金)

令和6年9月30日(月)

目的 : ライトホームでの手技を紹介し施術に活かしていただく機会とする。

内容 : ライトホームの概要、事業内容の説明、実習を通して技術の向上を図る。

対象者 : 視覚障害者であんま・鍼・灸いずれかの免許を所持している方

配布資料 : ライトホーム研修メニュー一覧、パンフレット

7 静岡市発達障害者支援センター

基本理念

直接支援である相談、発達、就労支援及び情報提供や啓発研修のより一層の充実を図り、医療、保健、福祉、教育、雇用、親の会など関係機関や団体との連携により専門性を持った支援職員人材育成、ペアレントメンター、地域サポーター養成研修等の支援を行っていく。

令和6年度目標及び結果

目標1 静岡市発達障害者支援センター運営事業について、相談支援、発達支援、就労支援を継続し適切な助言や支援の提案を行う

結果 発達障害者支援法に基づく発達障害者に対する相談支援、発達支援、就労支援、関係機関に対する普及啓発及び研修等を行い、また、静岡市在住の自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害等の発達障害がある本人、家族、関係者及び関係機関からの相談支援を行った。

相談支援においては、相談者や関係機関と支援や情報を共有するために、令和6年度も引き続き電話相談のやり取りを丁寧に行うことを意識した。発達支援については、おもに支援体制サポート強化事業や※1コンサルテーション事業において、特に園・小・中学校および高等学校に訪問をした際に、複数の児童・生徒の様子と助言を求められることがあったため、発達支援の件数が目標を上回った。就労支援においては目標を下回った。一方で就労支援においては相談時間が当センターで基本の1時間を大幅に越えて2時間にわたるケース、発達障害の特性に加えて精神障害や人格障害が疑われるケースなど、相談内容についてはより困難化をしていたり、相談受付の見極めに慎重を要する相談者も増えてきており、今後重点的な支援の課題として取り組みたい。

※1年4回の支援体制サポート事業を超えてさらにバックアップが必要となる場合、訪問して支援する事業

目標2 発達障害者家族支援・支援体制サポート強化事業について、支援体制サポート強化事業において、巡回相談を実施する

※2ペアレントメンター・※3地域サポーター養成講座を実施し、あわせてペアレントメンターの活用を行う。

※2自らも発達障害のある子どもの子育てを経験し、かつ相談支援に関する一定のトレーニングを受けた親
※3養成講座を受けた専門機関等の職員

結果 ペアレントメンター・地域サポーター養成研修では、例年の養成講座6回に加え、(養成講座を修了したペアレントメンターが実際に活動を継続している地域はまれであり、)引き続き活動を継続できる体制づくりを実施した。1回のフォローアップ研修も実施した。

支援体制サポート強化事業については、今年度も園・小中学校に加えて、高等学校および就労移行支援事業所への訪問を、昨年度に引き続き実施した。さらに新しいこととして、市内の私立学校へも募集をおこなった。その結果、中高一貫校を含む6校へ訪問を実施した。今後も乳幼児期から成人期まで途切れのない支援がつながるよう事業を継続していくことを課題とする。

目標3 発達障害について、主催研修会、専門研修会、講師派遣を実施し、普及と啓発活動を行う

結果	令和５年度に引き続き一般研修、専門研修、かかりつけ医等発達障害対応力向上研修会を対面形式やZoomによるオンライン開催により実施した。また視聴期間を決めてWebで視聴できる形式（期間限定のWeb配信、常設のWeb研修、ライブ配信した研修の期間限定見逃し配信）で実施した。そのためWebによる視聴回数も参加延べ人数としているため、目標を上回った。ペアレントメンター・地域サポーター養成研修など一部の研修会については、対面形式とオンライン形式を組み合わせたハイブリット型で実施した。今後も研修会の質と参加者の利便性双方に考慮した開催を継続することとする。
-----------	---

(1) 発達障害者支援センター事業(委)

ア 発達障害児者及び家族に対する相談支援

	令和６年度計画・目標	令和６年度実績	令和５年度実績
年間延べ相談件数	1,000 件	592 件	1,174 件

イ 発達障害児者及び家族に対する発達支援

	令和６年度計画・目標	令和６年度実績	令和５年度実績
年間延べ相談件数	1,000 件	1,126 件	2,301 件

ウ 発達障害児者に対する就労支援

	令和６年度計画・目標	令和６年度実績	令和５年度実績
年間延べ相談件数	150 件	135 件	452 件

エ 関係施設及び関係機関に対する普及啓発及び研修（集合形式とWeb形式による開催）

	令和６年度計画・目標	令和６年度実績	令和５年度実績
年間開催回数 (参加延べ人数)	100 回 (2,600 名)	150 回 (4,944 名)	157 回 (7,705 名)

(2) 家族支援・支援体制サポート強化事業(委)

ア 支援体制サポート強化事業による巡回

	令和６年度計画・目標	令和６年度実績	令和５年度実績
年間延べケース数	500 件	998 件	1,988 件
年間延べ訪問数	184 回	112 回	223 回

イ ペアレントメンター・地域サポーターの養成

	令和６年度計画・目標	令和６年度実績	令和５年度実績
年間開催回数 (参加延べ人数)	6 回 (300 名)	7 回 (474 名)	8 回 (615 名)

ウ ペアレントメンターの活用

	令和６年度計画・目標	令和６年度実績	令和５年度実績
年間実施回数 (ペアレントメンター延べ人数)	60 回 (160 名)	62 回 (129 名)	61 回 (130 名)

基本理念

私たちは、障がいを持つ方々の生活の充実・納得を目指して、チームを組んで医療と療育の総合的支援に取り組めます。

令和6年度目標及び結果**目標1 地域ニーズの的確な把握と、適切な病床利用**

入所者数 37 名

結果 令和6年度の入所者数については、1名が死亡退所した結果、年度末において児童が12名、成人が23名の計35名であった。

目標2 入所利用者の満足度の向上

病棟での様々な行事の充実

結果 病棟での行事については、感染予防に配慮しながら、夏祭やクリスマス会などを実施した。また、制限を設けながらも可能な限り、家族に行事参加や面会をしていただいた。

目標3 在宅重症心身障害児者の福祉向上

利用者数 生活介護 6 名/日 児童発達支援 4 名/日 短期入所等 4 名/日

結果 外来患者については、延べ患者数は減少したが、初診患者数は増加した。また、いわゆる発達障害の患者の増加に対応するため、生活に根差したリハビリテーションの提供、オンライン診療と対面診療の併用、相談支援機能の充実、関係機関との連携を図った。

在宅支援福祉関連サービスでは、短期入所等については、目標を上回ったが、生活介護、児童発達支援については、目標を下回った。

目標4 発達障害の患者への対応

初診患者の待機期間の短縮、陪席研修の拡充

結果 初診患者数は増加するものの、待機期間の短縮には至らなかったが、県東部の地域保健のために、陪席研修を拡充するとともに、保健所の発達健診の二次スクリーニングへの参加や三島市と伊豆の国市へ専門家としてのアドバイスなどを行った。

目標5 運営システムの見直しによる施設機能の充実

オンライン診療と対面診療の併用、地域連携機能の強化

結果 オンライン診療と対面診療の併用を本格実施するとともに、関係機関との連絡調整窓口を一元化するなど地域連携機能を強化することにより、施設機能の充実を図った。

当センターは、社会福祉施設であるとともに、医療法に基づく病院であるので、医療の提供も併せて行っている。

医療の提供については、重症心身障害児(者)への入院診療とともに、外来診療として、小児科(小児神経科、児童精神科、発達行動小児科)、整形外科、リハビリテーション科、障害児(者)歯科の専門診療を実施している。

地域への支援の必要性が高まる中、入所・通所事業、相談支援事業、医療の提供を通じて、静岡県東部の障害児(者)の総合的な療育支援の機能を担っている。

(1) 医療型障害児入所施設（一種事業）・障害福祉サービス事業（療養介護）（二種事業）

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
一日平均在所児（者）数	37 名	35.3 名	35.5 名
一日平均外来患者数	110 名	100.3 名	104.3 名

（ 入 所 ）

（ 外 来 ）

- ・ 定 員 43 名 （ 43 名 ）
- ・ 年間延べ患者数 23,882 名 (25,055 名)
- ・ 在所児（者）数 35 名 （ 36 名 ）
- ・ 年間診療日数 238 日 （ 240 日 ）
- ・ 年間延べ在所児童（者）数 12,881 名 (12,978 名)
- ・ 一日平均患者数 100.3 名 （ 104.4 名 ）
- ・ 一日平均在所児童（者）数 35.3 名 （35.5 名）

(2) 障害福祉サービス事業（生活介護）（二種事業）

(2) 障害福祉サービス事業	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
一日平均利用者数	6 名	5.6 名	5.9 名

- ・ 定 員 6 名 （ 6 名 ）
- ・ 登録者数 19 名 （ 19 名 ）
- ・ 年間延通所者数 1,318 名 (1,406 名)
- ・ 一日平均通所者数 5.6 名 （ 5.9 名 ）
- ・ 年間通所日数 235 日 （ 237 日 ）

(3) 障害児通所支援事業（児童発達支援）（二種事業）

(3) 障害児通所支援事業	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
一日平均利用者数	4 名	3.4 名	3.1 名

- ・ 定 員 5 名 （ 5 名 ）
- ・ 登録児童数 9 名 （ 9 名 ）
- ・ 年間延通所児数 807 名 （ 729 名 ）
- ・ 一日平均通所児数 3.4 名 （ 3.1 名 ）
- ・ 年間通園日数 237 日 （ 232 日 ）

(4) 障害福祉サービス事業（短期入所）（二種事業）

(5) 日中一時支援事業（地域生活支援）（公益事業）㊟

(4) 障害福祉サービス事業 短期入所 (5) 日中一時支援（地域生活支援）	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
一日平均利用児（者）数	4 名	4.2 名	4.0 名

- ・ 年間延べ利用者数 1,515 名 (1,464 名)
- ・ 一日平均利用児（者）数 4.2 名 （ 4.0 名 ）
- ・ 年間実施日数 365 日 （ 366 日 ）

(6) 障害児相談支援事業・特定相談支援事業（二種事業）

障害児支援利用計画及びサービス等利用計画策定に伴う相談の取り扱い件数が増加している。また、発達障害に関連する相談への対応として、*静岡県東部発達障害者支援センター「アスタ」と連携して、研修会等を開催した。（*所在地：沼津市 運営主体：NPO 法人自閉症 e スタイルジャパン）

ア 障害児相談支援事業 ……障害児支援利用計画の作成

イ 特定相談支援事業 …… サービス等利用計画の作成

ウ 静岡県在宅重症心身障害児（者）療育支援事業・・・㊦

医師・看護師・リハビリ・保育士等の専門職による外来相談を中心に、重症心身障害児（者）を対象として、地域での療育や生活に関する相談・支援を実施した。

エ 静岡県発達障害者支援センター機能強化事業…㊦

発達障害児（者）のライフステージに応じた支援を提供するため、県から委嘱されたコーディネーターを中心に、静岡県東部発達障害者支援センター「アスタ」と連携をしながら、相談援助を実施した。

オ 地域連携支援事業

ウの対象外の障がいを持つ方に対し、当施設の独自事業として、施設・保育所・特別支援学校等へリハビリ等の専門職を派遣し専門的な技術指導や助言等を行った。

事業	支援内容	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
ア、イ	計画相談等（モニタリング含む）	400 回	316 回	346 回
ウ	施設支援一般指導等	90 回	97 回	71 回
エ	一般相談（地域生活支援事業含む）	800 回	936 回	655 回
オ	施設支援一般指導等	50 回	37 回	38 回

(7) その他の事業（なでしこプラン）無料健康相談

「伊豆医療福祉センターまつり」に合わせて、無料健康相談を実施した。また、幅広い相談に対応できるよう、他施設や外部団体との連携強化を図った

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
年間利用者数	15 名	29 名	12 名

(8) 生活に根差したリハビリテーションの提供

重症心身障害児（者）だけでなく、発達障害等の患者が安心して地域で生活できることを目指し、リハビリテーションを提供するとともに、個人の機能・能力の適正評価、多職種の連携、生活を支える人と情報の共有化を図った。

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
一日平均外来リハ件数	80 名	66.8 名	73.0 名

(9) 薬剤管理指導業務

入所者が服薬している薬剤について、薬剤師が薬学的管理業務を実施して記録を作成し、入所者の御家族等へ送付・連絡した。

なお、定期的に薬剤が処方されていない者等は、対象外としている。

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
毎週平均実施患者数	31名	31名	31名

(10) 栄養サポートチーム加算の算定

栄養管理を要するに入所者に対して、生活の質の向上、原疾患の治癒促進、感染症等の合併予防を目的として、医師、看護師、管理栄養士等が共同して診療したが、施設基準の要件を満たすことができなかったため、当該算定はできなかった。

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
毎月平均実施患者数	37名	0名	0名

(11) 発達障害の患者の初診までの待機期間の短縮

事前問診によるスクリーニングとオンライン診療などを行うことにより、初診患者数を増やしたが、それにも増して、受診希望者が増加したため、待機期間は、逆に伸びてしまった。

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
平均待機期間	4.5カ月	8カ月	6カ月

(12) 発達障害診療医師養成研修（陪席研修）…㊦

地域において、発達障害の早期発見、早期治療ができる医療体制の構築を目指して、発達障害の診察等に携わる医師の専門性の向上を目的とする臨床実習を実施した。

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
当年度参加医師数	8名	5名	6名
累積参加医師数	23名	19名	14名
当年度参加医療機関数	4	5	2
累積参加医療機関数	8	11	6

(13) オンライン診療と対面診療の併用

外来患者や職員の感染防止のみならず、静岡県東部という距離的にも時間的にも遠い分散された地域の特性の中、通院の負担、特に増加する共働き世帯の制約を軽減するために、オンライン診療と対面診療の併用を本格実施した。

(14) 地域連携機能の強化

相談支援課に地域連携の機能を担わせ、いままで分散していた、関係機関との連絡調整窓口や利用者の相談窓口を一元化することにより、業務の効率化と利用者へのサービスの向上を図った。

9 川奈臨海学園

基本理念

子どもの最善の利益のため、子どもたち一人ひとりが尊重され、心身とも健やかに育成され将来健全な社会の一員として自立できるように支援を行う。

令和6年度目標及び結果

<児童養護施設>

目標1 県の社会的養育推進計画に合わせた取り組み

- (1) 1ユニット定員6名の家庭的な環境で子どもたちの生活支援を行う。
- (2) 児童福祉法の理念に基づく県の社会的養育推進計画に沿って、児童養護施設の高機能化・多機能化について、検討し進めていく。

結果 家庭的で小規模なユニット形態の生活に移行してから4年目となり、児童個々の課題をより明確にし、それぞれのニーズを汲み取りながら、支援を行えるようになってきた。
社会的養育推進計画に則り、伊東市鎌田地区・八幡野地区で地域小規模児童養護施設を運営している。

目標2 基本理念に基づき、児童の生活支援及び自立へ向けての取り組み

- (1) 本体施設 36名、地域小規模施設 2施設 計12名
自立支援計画票に基づき児童一人ひとりに合った生活支援を行う。
- (2) 高校卒業後を見据え、自立に向けて支援する。
目標：該当児童2名
- (3) 家庭復帰へ向けて家族との連携及び協働について家族再統合のできる家庭の調整を行う。
目標：3家庭

結果 関係機関と協議し入所児童ごとに自立支援計画を立てた上で支援を行った。
令和6年度措置対象入所児童は 46名（入所理由別内訳）
・虐待による入所 37名 80.4%
・養護による入所 8名 17.4%
・その他による入所 1名 2.2%
新規入所者は9名、退所者8名、（内訳：家庭復帰4名、他施設及びグループホームに移動2名、専門学校進学1名、就職1名）

目標3 里親支援への取り組み

- (1) 里親の研修、実習を積極的に受け入れる。
- (2) 里親の開拓や資質向上のサポートを行う。

結果 (1) 静岡県から養育里親認定研修事業の委託を受け里親施設研修を実施した。
(2) 施設と同じく社会的養護を担う里親家庭との連携を強化するため、東部・賀茂地区の里親会に参加した。また里親家庭の子育て相談や一時的休息を図ることを目的に川奈サロンの開催や地域別サロンに参加した。
(3) 里親相談会を、誰でも気軽に立ち寄ってもらいたいという思いから、伊東市内のショッピングセンターにて毎月1回のペースで開催し、里親制度を分かりやすく説明する展示や個別相談などを行った。10月の里親月間では同ショッピングセンターにて120部の里親啓発のチラシを配布し、更なる里親制度の周知を図った。

	実績
(1) 養育里親認定研修	7 組 13 名
(2) 里親の開拓や資質向上のサポート	東部・賀茂里親会 8 回 サロンの開催・参加 17 回
(3) 里親相談会	来場者 53 名 相談件数 13 回

＜病児保育＞

目標 4 病児保育事業の充実を図る

- (1) 伊東市の委託を受け指定医療機関と連携し、病児に対して疾病からの回復を支援する。
- (2) 関係機関と連携し、周知方法やより利用しやすい方法を整理しながらより多くの市民へ事業の周知を図り、利用者数の増加に繋げる。

結果 (1) 伊東市内の小児診療を行う 4 医療機関に協力を仰ぎ、伊東市内地区ごと利用しやすいようにした。

(2) 利用者への情報提供や予約連絡等に SNS を活用し、連絡方法の幅を広げた。また利用する保護者が安心して預けられるよう日中の様子などを SNS で定時報告する取り組みを実施した。

利用者は年間目標数の延べ 400 人を達成した。

目標 5 子育て短期支援事業の推進

複数の市町の要請を受け、児童を養育することが一時的に困難な家庭に対し緊急一時的に保護、養育を行い、児童及び家庭の福祉の向上を図る。

結果 令和 6 年度は受託を必要とするケースはなかった。

令和 6 年 10 月より近隣市町の伊豆市と子育て短期支援事業の契約を交わし、伊豆の国市とも令和 7 年度からの委託に向け協議を実施した。熱海市からの委託については引き続き協議している。

(1) 児童養護施設運営事業（一種事業）

月別在所児童数（本体と地域小規模施設合算）

（名）

年 月	初日在籍者数	延べ人数	年 月	初日在籍者数	延べ人数
令和6年4月	36	1,080	10月	41	1,272
5月	36	1,124	11月	41	1,235
6月	37	1,097	12月	43	1,324
7月	36	1,133	令和7年1月	42	1,302
8月	38	1,196	2月	42	1,176
9月	41	1,187	3月	42	1,231
			計	475	14,357
			() は前年度	(434)	(14,244)
			月 平 均	39.6	1196.4
			一日平均		39.3

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
本体	36名	29.0名	25名
地域小規模施設わかな	6名	5.0名	5.2名
地域小規模施設あおば	6名	5.3名	6.0名
一日平均在所児童数	48名	39.3名	36.2名

(2) 病児保育事業（二種事業）㊟

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
年間利用延べ児童数	400名	447(439)名	519名
月平均児童数	34名	37.3(36.6)名	43.2名

* () 内は委託に係る伊東市在住延べ人数

(3) 子育て短期支援事業（二種事業）㊟

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
年間延べ利用児数	20名	0名	46名

(4) その他の事業（なでしこプラン）

ア 保護観察対象等が行う社会貢献活動の受け入れ

保護観察所及び地区保護司会と連携し、保護観察対象者の社会貢献活動の場を当学園が提供し継続的に受け入れと支援を行う計画を立てたが、該当する方はおらず、実施できなかった。

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
年間受け入れ回数	2回	0回	0回
年間受け入れ延べ人数	16名	0名	0名

イ 退所児童の健康診断補助事業

施設の自立支援担当職員が中心となり施設退所者のアフターケアを継続的に行っているが、生活困窮のため健康診断等を受けていない医療的ケアが必要な退所者はいなかった。

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
年間受け入れ延べ人数	2名	0名	0名

(5) なでしこプラン以外の公益的活動

・地域支援事業の推進

伊東市小室地域において住民が安心して暮らせる地域作りに向け、住民と関係機関が連携し、さまざまな地域課題を共有し助け合う社会を育んでいく場の設置検討を目的とした小室地域ふるさと協議会会議に参加。ふるさと協議会の在り方や地域住民への周知方法等についても協議した。

検討内容	会議方法	回数
前回の内容確認、作業部会について、チラシの検討 等	WEB 会議	1 回
	参集型会議	1 回

基本理念

児童福祉法に基づく児童発達支援センターとして、発達の心配な乳幼児の子育て支援・家庭支援の充実を図り、こどもたちの健やかな育ちと安心・安全な生活の実現に努める。

令和6年度目標及び結果**目標1 通園支援事業の充実**

- ・個々の発達状態を踏まえた個別支援計画に基づき、こども・保護者の気持ちに寄り添いながら、集団生活を通して遊びとコミュニケーションの力を育て、生活習慣の自律と社会適応を支援する。
- ・支援の多様化に伴い、希望者には幼稚園・保育園・事業所等との並行通園を実施し、関係機関と連携を取りながらこどもの成長・発達を促していく。
- ・第5期指定管理を受託し利用料金併用制へ変更の4年目となる。過去3年間の利用状況等を把握し、療育、サービスの質を落とさず収入を上げる方法について運営委員会等で検討し、全職員で取り組んでいく。

- 結果**
- ・令和6年度は年長児が31名と例年になく多かった。体力があり体調を崩す事が少ないため、日々の出席人数が多く利用率が前年度よりも更に増加した。年長児が多いことで集団での活動がより充実しルールのある遊びを楽しめるようになり、言葉やサインでのコミュニケーションがより取りやすくなるこどもが多かった。就学に向けての取り組みを活動の中に多く取り入れる事で年中、年少児も自然と生活習慣の自律やコミュニケーションの力が身についていった。
 - ・保護者のニーズに応じ幼稚園、こども園との並行通園児が7名、他事業所との並行利用児は26名になった。併用者同士を組み合わせ利用日を調整することで利用率の向上を図った。また、関係機関とは会議や電話等で連絡を取り合い情報共有することで、こどもに寄り添った支援ができた。
 - ・感染対策に配慮しつつ昨年度よりも行事の規模を広げていき、家族で参加できる行事を増やした。11月には50周年記念イベントを開催し、通園児、卒園児とその家族、地域の方等たくさんの方に参加していただき園児にとっては良い経験になり、地域の方々には園の事を知ってもらう良い機会となった。

目標2 職員の資質・意識向上

- ・園内研修（業務マニュアルの理解、障害・発達のとらえ方、家族支援、移行支援、個別サービス評価等）の充実を図る。引き続き、職員全員にいこいの家の運営方針等を周知徹底し、より良い支援に繋がるよう意識を高めていく。
- ・研修計画に基づき、外部研修への参加、オンライン研修を取り入れ職員全員が参加できる体制を整えることで、専門性の高い研修を積極的に受講し、より多くの知識・技術の習得を図る。

- 結果**
- ・園内研修では発達支援研修として、オンラインで静岡市発達障害者支援センター「きらり」作成の動画を見て勉強会を年4回行い、こどもの発達や支援の方法について理解を深める事ができた。また、外部の研修にも対面やオンラインで出来るだけ多くの職員が参加できるように配慮し、参加した職員が他の職員に内容を伝達する報告会を実施し全職員で共有した。その他人権擁護・虐待防止、感染症対策、防災対応なども講師に来ていただき実践を交えて講義を聞き、より良い支援に繋がるよう意識を高めることができた。

- ・ヒヤリハットやアクシデント報告は毎月クラスリーダー会議で分析し、対応の見直し、振り返りを行い、結果を全職員に周知し再発防止に努めた。

目標3 地域支援事業（親子教室・保育所等訪問支援事業）の充実

- ・親子教室は、保健センター、あそびのひろば・ぱすてるひろば、静岡済生会療育センター令和、静岡市発達障害者支援センターきらり、小児科医院、こども病院等からの紹介で満2歳児の参加が増えている。1グループを7～8名の小集団とし、今後も関係機関との連携を密にし、随時受け入れを行い切れ目のない支援を行う。
- ・保育所等訪問支援事業は、保健師や計画相談支援事業所、児童発達支援事業所からの紹介が多いため、今後も連携を深めていく。また、保護者から利用希望があれば速やかに支援に繋げていく。

結果

- ・親子教室は、今年度もひとクラス7組までとし、前半、後半に分け2部屋で実施することで1日4クラスが開催できた。希望があれば随時受け入れる方針は変わらず、延べ人数にすると昨年度よりも約300名増え1766名の参加となった。これまで他事業所を利用し始めると参加を終了していたが、ケースごと検討し引き続き参加できるようにした事で参加人数が増えたと思われる。
- ・保育所等訪問支援事業は、年間11ケースと契約し支援を実施した。今年度は保育園・幼稚園からの紹介が多く、保育園・幼稚園からは、これまでの実績の成果を認められ、信頼を得られるようになってきている。いこいの家の通園に繋がるケースや通園児が保育所等訪問を利用しながらこども園との並行通園を開始するケースが見られた。また、相談のみで支援利用に至らなかったケースが6件あった。

目標4 地域福祉事業の充実

- ・「いこいの家通信」を毎月発行し、事業内容を地域自治体や関係機関に伝えていく。
- ・地域に開かれた施設として、見学・研修・実習・ボランティア等について、感染防止対策をしたうえで積極的に受け入れていく。
- ・地域との交流、啓発を図るために、いこいの家まつり（仮）を開催する。

結果

- ・「いこいの家通信」は毎月1回発行し通園児・親子教室保護者の他、関係機関、近隣町内会などに配布し、事業内容を知っていただくことができた。
- ・ボランティアは、週に1回の保育援助が6名、月に1～2回の壁面装飾作りが2グループ（9名）、散髪ボランティア2名は2か月に1度活動していただいた。実習生は福祉、保育、看護それぞれの学校から受け入れた。静岡市公立こども園保育士施設実習や静岡県の重心児者対応研修・実習も受け入れ施設内やこども達の様子を見ていただくことができた。
- ・11月に50周年記念イベントとしていこいの家まつりを開催し、地域住民の方々にも大勢参加していただいた。事業所やサークル、飲食店で模擬店の出店やボランティアとしての参加など地域の方々の協力があって成功できた。

(1) 障害児通所支援事業（二種事業）⑤

ア 児童発達支援通所支援（定員 50 名）

一日平均在園（通園）児童 41.5 名を目標に、就学前の心身障害児に対して集団参加を通して、生活と遊びを充実させ、健やかな成長、発達をしていくように支援し、併せて就園・就学に向けての基礎作りをした。令和 6 年度は 7 名の並行通園児を受け入れた。

安全管理については前年度に設置した送迎車の置き去り防止装置を活用した。また、令和 5 年度末に静岡市より登降園管理システムの導入が決定、令和 6 年度より本格的に運用を開始し安全な登降園管理に努めた。

・入園児数（定員）	55 名	(55 名)
・年間新入園児童数	15 名	(20 名)
・年間退園児童数	32 名	(15 名)
・年間延在園（通園）児童数	9,903 名	(9,293 名)
・一日平均在園（通園）児童数	40.9 名	(38.9 名)

疾病別人員 令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日

病 名	年間取扱実 人員（名）	構 成 比 （％）
脳 性 麻 痺	4	7.3
自閉スペクトラム症	27	49.1
精神遅滞（発達遅滞を含む）	6	10.9
染色体異常（ダウン症他）	8	14.5
その他	10	18.2
計	55	100.0

月別在園児童数（年間通所日数 242 日）

年 月	在籍者数	延べ人数
6 年 4 月	55	842
5 月	55	870
6 月	55	837
7 月	55	890
8 月	55	765
9 月	55	767
10 月	55	920
11 月	55	836
12 月	55	819
7 年 1 月	55	774
2 月	55	746
3 月	55	837
合 計	660	9,903
月平均	55	825.2
一日平均		40.9

イ 保育所等訪問支援

	令和 6 年度計画・目標	令和 6 年度実績	令和 5 年度実績
保育所等訪問支援	15 件	11 件	14 件
訪問支援		104 件	104 件
来所相談		43 件	53 件
電話相談		310 件	423 件

(2) 障害児相談支援事業・特定相談支援事業（二種事業） ⑤

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
利用計画（モニタリング含む）作成件数	175 件	216 件	182 件
一般相談		171 件	141 件
面談		270 件	237 件
電話相談		1,802 件	1,685 件
訪問支援		153 件	167 件
その他		505 件	419 件

(3) その他 地域療育支援事業

ア 親子教室 年間 132 回（月平均 11.0 回）登録者数 138 名（118 名）

参加児延べ数 目標 1,700 名 実績 1,766 名（1,468 名）

イ 療育相談の実施（随時） 目標 70 名 実績 150 名（104 名）

一般相談（電話及び来所） 416 名（259 名）

昨年度より参加人数が増え、特にパステル広場からの紹介参加児が増えている。参加希望者全員待機することなく参加してもらう事ができた。療育相談は今年度も面談時の発達検査等の結果などを踏まえ、家庭での関わり方や進路などについてフィードバックを丁寧に行った。親子教室利用児以外の入園前の面談・療育相談は入園受付係の職員が対応した。（30 件）

ウ 地域交流等

夏祭りは通園児・保護者のみ2クラスごとの実施となったが、秋のいこいの家祭りは地域の方にも広く参加していただくことができた。

ボランティア受け入れはコロナ前の通常通りの受け入れをし、保育ボランティア、装飾ボランティア、散髪ボランティアに参加していただいた。

近隣の保育園との園庭交流を再開し、保育園の園庭に出向き園児と一緒に遊んだり、いこいの家の園庭に園児が遊びに来たりして交流することができた。

昨年度同様、実習生は同時期になるべく複数人が重ならないよう調整して受け入れを行った。静岡市公立こども園の特別支援基礎研修の実習受け入れや静岡県の重症心身障害児者対応支援従事者養成研修の実習受け入れも行った。

防災関係では、園内の避難訓練では、広域避難場所の小学校敷地内まで避難する経験を今年度も行った。

- ・いこいの家通信発行 12 回（12 回） 280 部（292 部）
- ・夏祭り参加者 通園児と保護者のみ2クラス毎で実施 保護者 65 名（58 名）
- ・実習生受入 87 名（73 名） 延 257 名（224 名）
- ・体験研修受入 36 名（30 名） 延 38 名（30 名）
- ・ボランティア受入 6 名（5 名） 団体 9 名（9 名） 延 188 名（129 名）

基本理念

私たちは、ご利用者一人ひとりの声に耳を傾け、真に、ご利用者の立場に立った支援を実践します。

令和6年度目標及び結果**目標1 施設や住み慣れた地域で、安心して生活できるように支援する**

- ・在宅サービスから、施設入所まで、包括的に事業を推進する。
- ・第三者評価の結果から、具体的な問題点を把握しサービスの向上に結び付けていく。

結果 当苑の居宅支援事業所及びデイサービス等の利用者やご家族に不測の事態が生じた際、スムーズにショートステイで受け入れ、セーフティーネットとして機能している。

第三者評価で指摘された事業計画について、利用者やご家族へ周知するための掲示は行っていたが、分かりやすい資料作成や家族会での説明などもう一步踏み込んだ対応はできていなかった。サービスの質向上に向けた取り組みについて、自己評価の実施、組織的に評価を行う体制整備は、引き続きの課題となっている。

目標2 共生型サービスの導入（短期入所事業）により、複合的な問題に対応する

- ・短期入所事業の空所利用として、8050 問題等を介護保険・障害福祉サービスを一体的に提供することにより、複合的な問題に対応する。
- ・障害福祉サービスでは、地域生活を続けていくのにあたり、65 歳以降になると介護保険が適用されるという制度の壁を共生型サービスの導入により、包括的に対応する。

結果 済生会系列の障害者施設から、65 歳を超えた利用者を共生型サービスで受け入れ、その後介護保険に切り替えるとともに長期入所となった。当苑は医療処置や看取り介護などを強みとしているため、医療的に障害者施設での対応が困難となった利用者も積極的に受け入れていきたい。

目標3 稼働率の向上を図り、安定した運営を目指す

- ・事業計画の目標に向けて、職員一人ひとりが努力する。
- ・L I F E（科学的介護情報システム）を活用し、科学的な介護を推進する。

結果 特養部及びデイサービスにおける稼働率に若干の低下がみられたものの、感染症BCPの見直しを行い、コロナ、インフルエンザともに感染症のクラスターなく事業を継続することができた。デイサービスにおいては、リハビリに力を入れ日々の活動は活気に溢れているが、全体の集客は伸び悩んでいる現状にある。ショートステイ部門においては、大きく稼働を上げることができた。残念ながらL I F Eのフィードバック情報は活用できておらず、今後の課題である。

目標4 施設の魅力を発信し、雇用につなげる

- ・ホームページに活動を掲載し施設の魅力を伝えていく
- ・実習を通し、福祉の魅力を伝え、雇用につなげる。

結果	ホームページは令和5年度に比べ、季節の行事や日頃の活動などを掲載できた。ホームページを見て入所申し込みに来られたご家族もあった。面会制限などのお知らせを発信するツールになりがちだが、引き続き活動を発信しながら、活気のあるホームページにしていきたい。 各事業で実習生を受入れ、介護・福祉の啓発活動を行ったが、雇用には結びつきにくかった。
-----------	---

(1) 特別養護老人ホーム運営事業（一種事業） 80名定員（80名）

経営の健全化のため空床率の削減に努めた。

要介護認定者で、常時介護を必要とし、自宅で生活することが困難な方に対し、適切な健康管理のもとに、良質な施設サービスを提供することができた。

・年間延べ利用者数	28,234名	(28,995名)
・年間新入所者数	37名	(46名)
・年間退所者数	39名	(45名)
・入所者平均年齢	86.9歳	(85.9歳)
・平均介護度	3.81	(3.83)
・新規入所申込	96件	(101件)
・入所希望者(年度末現在)	83名	(78名)

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
一日平均延利用人数	79名	77.3名	79.2名

疾病別人員 令和6年4月1日～令和7年3月31日現在

病 名	年間実人員（名）	構成比（％）
脳卒中等	26	22.6
認知症等	49	42.6
リウマチ、脊椎症等	1	0.9
その他	39	33.9
計	115	100.0

(2) 老人短期入所事業（二種事業） 定員20名（20名）

昨年度より、稼働率は大幅に伸ばしたが、目標には至らなかった。

新型コロナウイルス感染症の陽性者が発生するも感染拡大を防ぐことができ、事業を休止することはなかった。

・年間延べ利用者数	4,344名	(2,953名)
・年間実利用者数	339名	(352名)
・利用者平均年齢	87.0歳	(87.2歳)
・平均介護度	要介護 3.22	(2.93)

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
一日平均延利用人数	15名	11.9名	8.1名

(3) 通所介護部

ア 老人デイサービスセンター（通所介護事業）（二種事業）定員一日 35 名（35 名）

新型コロナウイルス感染症の流行も落ち着き、以前の日常が徐々に戻ってきている。個別昨日訓練加算（Ⅰ）、口腔機能向上加算（Ⅰ）の算定を開始し、リハビリ希望の利用者が増加した。

・年間延べ利用者数	5,653 名	(5,760 名)
・年間実利用者数	479 名	(523 名)
・年間実施日数	308 日	(308 日)
・利用者平均年齢	87.3 歳	(87.7 歳)
・平均介護度	要介護 2.0	(2.3)

	令和 6 年度計画・目標	令和 6 年度実績	令和 5 年度実績
一日平均延べ利用人数	25 名	18.3 名	18.7 名

イ 介護予防・日常生活支援総合事業（公益事業）

要支援者・事業対象者で日常生活に支障がある方に対して、日帰りで各種サービスを提供する「通所介護相当サービス」を行った。

・年間通所相当延べ利用者数	232 名	(263 名)
・年間通所相当実利用者数	31 名	(35 名)
・年間通所相当実施日数	308 日	(308 日)

	令和 6 年度計画・目標	令和 6 年度実績	令和 5 年度実績
月平均実利用者数	10 名	2.6 名	2.9 名

(4) 訪問介護部

ア 老人居宅介護等事業（訪問介護事業）（二種事業）

要介護認定者で日常生活に支障がある方がいる家庭に対し、ヘルパーを派遣し、日常生活の支援を行った。

・年間延べ利用者数	3,103 名	(3,383 名)
・年間実利用者数	420 名	(488 名)
・年間活動日数	299 日	(308 日)
・利用者平均年齢	86.1 歳	(85.3 歳)
・平均介護度	要介護 1.6	(1.8)

	令和 6 年度計画・目標	令和 6 年度実績	令和 5 年度実績
一日平均延べ利用人数	17 名	10.4 名	11.0 名

イ 介護予防・日常生活支援総合事業（公益事業）

要支援者・事業対象者で日常生活に支障がある方に対して、日帰りで各種サービスを提供するホームヘルパーを派遣し日常生活を支援する「訪問介護相当サービス」を行った。

・年間訪問相当延べ利用者数	1,872 名	(2,081 名)
・年間訪問相当実利用者数	333 名	(370 名)
・年間訪問相当実施日数	299 日	(308 日)

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
月平均実利用者数	30名	27.8名	30.8名

(5) 居宅介護支援事業（公益事業）

5名のケアマネジャーが稼働し、ケアプランを作成した。地域包括支援センターから予防ケアプランの受託作成を行う等の連携を図った。

・年間ケアプラン給付管理者延べ数	2,103件	(2,193件)
・ケアマネジメント延べ数	108件	(129件)
・ケアプラン新規作成者	76名	(56名)
・平均介護度	要支援 1.62	(要支援 1.48)
	要介護 2.05	(要介護 2.12)

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
月平均件数	190件	184.3件	193.5件

(6) 地域包括支援センター運営事業（公益事業）委

静岡市からの受託事業として、西豊田、東豊田、東源台小学校区の高齢者及び地域住民からの相談解決のために制度やサービスを紹介し、関係機関等につなぐ。

また、介護保険要支援認定者等の予防プラン作成や支援困難ケースの解決のために、関係機関や自治会、民生委員との連携を図り、地域ケア会議を開催した。

・年間延べ総合相談者数	2,656名	(2,385名)
・介護予防支援	3,770件	(3,817件)
内訳		
(直営)	569件	
(委託)	3,201件	
・介護予防ケアマネジメント	2,221件	(2,200件)
内訳		
(直営)	488件	
(委託)	1,733件	
・年間活動日数	243日	(308日)

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
月平均数	410名	499.3名	501.4件

(7) 奨学金貸与事業（公益事業）

奨学金を貸与した外国人1名が令和4年度から当苑で勤務している。

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
年間貸与延べ人数	1名	0名	0名

(8) なでしこプラン

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
周知啓発活動 (小鹿苑カフェ)	60名	330名	356名
高齢者等緊急受け入れ事業	1名	3名	15名

月別 利用者（件）数

区分	特養		短期		デイサービス		通所相当		ホームヘルパー		訪問相当	
月	実人数	延べ人数	実人数	延べ人数	実人数	延べ人数	実人数	延べ人数	実人数	延べ人数	実人数	延べ人数
4月	81	2,339	34	435	41	497	3	21	38	275	30	175
5月	85	2,342	32	437	41	495	3	21	36	277	30	183
6月	83	2,321	23	322	37	454	3	21	34	259	30	158
7月	81	2,461	29	427	37	486	3	22	36	302	30	183
8月	80	2,470	28	417	40	504	3	20	37	284	29	167
9月	84	2,321	29	353	40	463	3	20	36	265	28	160
10月	82	2,430	29	328	40	475	3	22	34	266	30	181
11月	85	2,297	30	316	40	461	2	18	34	253	30	160
12月	84	2,406	29	317	41	435	2	16	37	250	25	130
1月	81	2,379	21	285	38	415	2	17	33	224	25	129
2月	81	2,070	28	379	41	461	2	16	32	214	25	131
3月	81	2,398	27	418	43	507	2	17	33	234	21	115
合計	988	28,234	339	4,344	479	5,653	31	231	420	3,103	333	1,872
月平均	82.3	2,352.8	28.3	362.0	40.0	471.1	2.6	19.3	35.0	258.6	27.8	156.0
1日平均	77.3		11.9		18.3				10.4			
					19.1				16.6			

区分	居宅		居宅総合	地域包括				包括総合	
月	支援件数	介護件数	ケアマネジメント	直営	委託	相談実数	相談延べ数	直営	委託
4月	33	137	12	52	282	111	196	42	152
5月	35	134	12	51	279	121	183	45	153
6月	35	135	12	47	277	118	237	47	152
7月	38	139	9	49	276	105	207	45	152
8月	37	142	8	45	270	108	187	44	149
9月	37	141	10	48	270	117	208	42	144
10月	37	140	10	45	265	129	247	36	146
11月	42	141	7	46	271	113	194	37	142
12月	37	143	9	47	266	108	223	38	145
1月	35	141	8	46	261	124	262	34	136
2月	36	137	6	48	257	135	283	39	139
3月	37	134	5	45	227	122	229	39	123
合計	439	1,664	108	569	3,201	1,411	2,656	488	1,733
月平均	36.6	138.7	9.0	47.4	266.8	117.6	221.3	40.7	144.4
1日平均	6.8		0.4	15.5		16.7		9.1	

基本理念

あなたがあなたらしく 私が私らしく

～ユニット環境を生かして、個性豊かな生活を支援します～

令和6年度目標及び結果**目標1 本人、家族に寄り添った思いやりのある介護サービスの提供**

- ・ここで良かったと思っていただけるよう日々のケアの質を向上していく。
- ・安心して最期まで過ごしていただけるよう看取りケアの質を向上していく。

結果 退所時に感謝の言葉をいただいているが、新規入居者は要介護4または5の重度の入居者が多く、短期間での退所となることもあり、本人家族との関係が構築できないこともあった。このような短期間の在所日数のなかでも看取りケアの質の向上に努めていきたい。

目標2 根拠に基づいた科学的介護サービスの提供と新たな加算の取得

- ・管理栄養士を増員し、栄養マネジメント強化加算と経口維持加算Ⅰ・Ⅱを取得することおよび精神科医療指導加算、認知症専門ケア加算Ⅰの取得を目指す。

結果 管理栄養士の増員は図れていない。看護師は9月になってようやく正規が3人体制となったが、コロナ、疥癬などの集団感染の発生により準備する余裕がなかったため精神科医療指導加算は令和7年度から開始する予定。認知症専門ケア加算は、受講した職員の異動がなければ令和8年度より算定可能となる予定。また令和7年度より新たな加算である認知症チームケア推進加算Ⅱ（一人120単位/月）を算定開始する。

目標3 安心できる防災対策

- ・地域と連携した実践的な防災訓練を行う。
- ・非常用自家発電をはじめ停電時に対応した整備を行う。

結果 施設の防災訓練に自治会の方が参加し、地域の防災訓練には職員が参加している。また、訓練には駿河消防署の隊員を招き、起震車による震度7の体験や、訓練に対する総合的な講評ならびに指導を受けた。その他、防災委員の3名に甲種防火管理者研修を受講させ意識を高めさせた。さらには来年度より防災士の資格を毎年2名ずつ取得させていく予定。静岡DWATにも1名登録。来年度も1名の登録を目指す。非常用自家発電の整備としては、令和7年度に※ブロックごとにポータブル電源を購入する予定。

※少人数のグループに分けて介護サービスを提供するユニット2つから構成されています。

目標4 新たな公益的な取り組みの実践

- ・地域と連携した活動（ウエスの会）を立ち上げ、軌道に乗せる。
- ・地域防犯活動を（青色防犯パトロール）行う。

結果 4月より毎月1回ウエスの会を開催。青パトは月2回運行している。CSW（コミュニティソーシャルワーカー）を配置したことで、地域ミニデイサービス、サロン、カフェの支援を通じ、自治会、地区社会福祉協議会、市社会福祉協議会等と顔の見える関係となり繋がりが強くなった。また、内勤の職員が地域に対する意識を持つようになり、企画、運営にも参加するようになってきている。

(1) 特別養護老人ホーム事業（一種事業）（定員 96 名）

昨年度に比較して退居者のペースが上がっており、令和 6 年度は 49 名が退所されている。新規入居者の調整が困難な状況であった。日常生活継続支援加算にこだわらず、要介護 3 でも体調が安定している方を増やしていかなければ更に状況は悪化すると思われる。また、特例入所となる要介護 1、要介護 2 の方も単価は下がるも空床を作りにくく平均在所日数が長いことから積極的な受け入れを行っていく予定。

- ・年間新入所者数 44 名 (29 名)
- ・年間退所者数 49 名 (31 名)
- ・一日平均入所者数 89.7 名 (92.3 名)
- ・入所者平均年齢 (R7.3.31 現在) 86.2 歳 (85.5 歳)
- ・平均介護度 4.2 (4.2)

	令和 6 年度計画・目標	令和 6 年度実績	令和 5 年度実績
一日平均在所者数	94 名	89.7 名	92.3 名

月別利用者数

(名)

	特 養		短 期	
	月末 入所者数	入所者延人数 ※	実人数	利用者延人数
令和 6 年 4 月	96	2,795	0	0
5 月	94	2,931	1	18
6 月	93	2,777	1	30
7 月	93	2,842	1	31
8 月	90	2,748	1	24
9 月	90	2,714	0	0
10 月	89	2,752	0	0
11 月	92	2,685	0	0
12 月	85	2,699	0	0
令和 7 年 1 月	86	2,669	1	20
2 月	90	2,413	1	28
3 月	93	2,713	1	31
合計		32,738		182
一日平均		89.69		0.50

(2) 老人短期入所事業（二種事業）（定員 13 名）

ショートステイのユニットは長期入所のユニットと離れているため、転倒転落のリスクの高い方や、頻回に痰吸引が必要な方、徘徊される方など特に目の離せない方の利用は難しく、受け入れ可能な利用者はかなり限定されてしまっている。また、長期入所の回転が速いため、利用が決まってもショートで待機する間もなく長期入所となってしまっており実績に反映されなかった。

	令和 6 年度計画・目標	令和 6 年度実績	令和 5 年度実績
一日平均利用者数	3 名	0.50 名	0.06 名

(3) 奨学金貸与事業（公益事業）

外国人介護職員は奨学金を利用した者も含め3名在籍している。夜勤勤務への対応が難しい職員もいる。また、ホームシックや帰国による長期休暇取得希望などそのサポートなど課題も多い。

介護職員の充足を図るためにも外国人の活用は必要不可欠な状況であるが、今後の採用を検討するならば、同じ国の方たちを複数名採用とし、日本語指導、行政手続き及び日常生活のサポートなど、専門的に対応を要することもあるので外部委託も検討としたい。

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
年間貸与者実人数	1名	0名	0名

(4) その他事業（なでしこプラン）

C S W（コミュニティソーシャルワーカー）を配置したことで自治会、地区社会福祉協議会、市社社会福祉協議会などとの繋がりが強くなり、ウエスの会をはじめSデイ、サロン、カフェの支援など大幅に実績が伸びた。作製したウエスは当苑をはじめ近隣の福祉施設に配付することで会員の皆様の地域貢献活動にもなりモチベーションの向上に繋がった。

また、防災、防犯の面からも地域に貢献するよう青色防犯パトロールも行うようになり、施設をPRできている。

その他、老人センターで活動している、ちぎり絵の会、水彩画の会に展示場所を提供し、年2回～3回作品の入れ替えを行っている。次年度においては、防災士と認知症サポーター養成の資格を取得し、出前講座に繋がりたいと考えている。

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
年間延べ人数	529名	1,357名	103名

※内訳

小鹿なでしこ苑 なでしこプラン	認知症カフェ・ウエスの会（96）外国人通訳支援（0）、介護相談（31）
小鹿なでしこ苑 公益的取り組み	しずおか防犯パトロール(216)、青色防犯パトロール(36)、Sデイ、カフェ、サロンの支援（97）、認知症サポーター養成講座（0）、地域防災支援（28）、就労支援・サポステ（11）
地域包括ケア連携士 なでしこプラン	学生服バンク事業（228）、子ども食堂（342）、出前講座事業（247）
地域包括ケア連携士 公益的取り組み	医療福祉のなんでも相談会（25）

基本理念

「あなたらしさを応援します」

～人権を尊重し、日々有効なサービスを展開します。そして常に生活の豊かさを求めます。～

令和6年度目標及び結果**目標1 サービスの向上に努める**

- ・福祉サービス第三者評価受審結果を生かし、利用者満足度向上のため継続的な取り組みを行っていく。
- ・感染症対策、防災対策等に取り組み、安心安全なサービスを提供する。
- ・利用者がより豊かな生活できるように個別支援計画に沿ったサービスを提供する。

結果 第三者評価結果を踏まえた業務改善により、サービス向上の取り組みを継続している。職員の意識にも、前向きな姿勢が見られるようになった。7月に入所者25名が感染するクラスターがあったが、経験を生かした対応ができた。音楽、ダンス、オンラインコンサート等の外部と関わる機会を多く設け、豊かな生活の一助とした。

目標2 施設の安定的な運営を図る

- ・65歳以上の入所者の介護保険施設への移行を適宜進めていく。
- ・相談支援事業所等との連携を図り、在宅障害者の動向やニーズの把握のため情報収集に努めるとともに、新たな利用者の獲得により、利用率向上につなげていく。

結果 入所者3名が介護保険施設へ移行した。相談支援事業所とは緊密な関係を築いており、通所、短期の新規利用につなげている。市との交渉継続により条例が改正され、令和7年度から通所利用対象者が知的障害者にも拡大し、今後の利用者獲得が期待される。その他、介護用品費等の負担見直しを行うなど経費節減に努めた。

目標3 働きやすい環境づくり

- ・業務改善に継続的に取り組み、業務の効率化と職員の負担軽減を図る。
- ・5S活動に計画的に組み、職場環境を整えて働きやすい職場を作る。
- ・人材確保、人材育成に組み、働きやすく、働きがいのある職場を目指す。

結果 業務改善に努めているが、人員不足が続いており、負担軽減には至っていない。今後、人員確保に向けた対策の再検討を行っていく。産業医からの助言もあり、職場環境の改善を意識する組織風土が醸成され始めている。強度行動障害に関し、多数の職員の研修受講により、同障害の理解を深め、実践に生かすことができた。

(1) 障害者支援施設（一種事業）（施設入所支援 50 名、生活介護 80 名）・・・指**ア 施設入所支援（定員 50 名）、生活介護（入所）（定員 50 名）**

長期入院する方や入退院を繰り返す方が多かったこと、介護保険施設への移行など退所される方が6名おり、退所から入所までの空床期間ができたことから、昨年度実績を下回る結果となった。

・新規入所者数	6 名	(1 名)
・退所者数	6 名	(1 名)
・延べ利用者数	施設入所支援	17,767 名 (17,986 名)
	生活介護	12,671 名 (12,777 名)

一日平均利用人数	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
施設入所支援	49.8名	48.7名	49.1名
生活介護	49.8名	48.6名	49.1名

疾病別人員

令和6年4月1日～令和7年3月31日

病 名	実人員（名）	構成比（％）
脳血管障害	3	5.3
脳性麻痺	22	39.3
脳外傷（頭部外傷）	8	14.3
脊髄損傷	6	10.7
頸髄損傷	3	5.4
下肢機能障害（上記以外）	6	10.7
特定疾病（難病等）	5	8.9
その他	3	5.4
計	56	100.0

平均年令	平均入所期間	平均障害支援区分
58.9歳	12年0か月	5.48

月別利用者数

（入所支援日数 365 日・生活介護日数 261 日）単位：名

	入所支援		生活介護			入所支援		生活介護	
	人数	延べ人数	人数	延べ人数		人数	延べ人数	人数	延べ人数
6年4月	50	1,414	50	1,039	10月	50	1,521	50	1,126
5月	49	1,442	49	1,070	11月	50	1,466	49	1,019
6月	50	1,419	49	947	12月	49	1,515	49	1,067
7月	50	1,511	50	1,122	7年1月	50	1,509	50	1,114
8月	51	1,554	51	1,104	2月	50	1,392	50	988
9月	51	1,478	51	1,035	3月	50	1,546	50	1,040
合 計							17,767		12,671
一日平均						—	48.7	—	48.6

イ 生活介護（通所）（定員 30 名）

週5日利用の方2名が施設入所に移行となり、新規利用者3名を獲得したものの、いずれも週2日から3日の利用であったため、昨年度実績を下回る結果となった。

- ・実利用人数 34名（33名）
- ・新規利用者数 3名（2名）
- ・退所者数 4名（3名）
- ・年間延べ利用者数 3,967名（4,510名）

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
一日平均利用人数	24.5名	16.4名	18.6名

月別利用者数（年間開所日数 242 日）

単位：名

	実利用者数	延べ人数		実利用者数	延べ人数
6 年 4 月	30	378	10 月	29	358
5 月	30	349	11 月	28	324
6 月	29	336	12 月	28	321
7 月	28	356	7 年 1 月	29	296
8 月	30	340	2 月	29	290
9 月	30	332	3 月	30	287
			合 計	--	3,967
			一日平均	--	16.4

(2) 日中一時支援事業（公益事業）〔生活介護（通所）空床利用〕⑤

日中における一時的な見守り、その他の支援を必要とする障害者に対し、送迎・入浴・食事のサービスを提供する事業であるが、利用者はなかった。

- ・実利用人数 0 名（0 名）
- ・年間延べ利用者数 0 名（0 名）

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
一日平均利用人数	空床利用	0 名	0 名

(3) 障害福祉サービス事業（短期入所）（二種事業） 定員 5 名 ⑤

定期的長期間利用の方の施設入所移行や逝去により、新規利用者 6 名を獲得したものの、いずれも短期間の利用であったため、昨年度実績を下回る結果となった。

- ・実利用人数 27 名（31 名）
- ・年間延べ利用者数 845 名（1,185 名）

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
一日平均利用人数	4.0 名	2.4 名	3.2 名

月別利用者数

(年間開所日数 365 日)

単位：名

	日中一時		短期入所			日中一時		短期入所	
	人数	延べ人数	人数	延べ人数		人数	延べ人数	人数	延べ人数
6 年 4 月	0	0	18	78	10 月	0	0	10	56
5 月	0	0	14	90	11 月	0	0	14	61
6 月	0	0	9	76	12 月	0	0	13	65
7 月	0	0	12	42	7 年 1 月	0	0	10	85
8 月	0	0	14	93	2 月	0	0	9	62
9 月	0	0	9	64	3 月	0	0	13	73
					合 計	0	0	145	845
					一日平均	—	0	—	2.4

(4) 静岡市桜の園城北館 障害福祉サービス事業（生活介護）（二種事業）定員 20 名 ⑩

相談支援事業所や特別支援学校からの紹介、施設入所者の日中活動の場としての定期利用開始など、新規利用者の獲得により、昨年度実績を上回る結果となった。

- ・実利用人数 19 名 (17 名)
- ・新規利用者数 3 名 (0 名)
- ・退所者数 0 名 (1 名)
- ・年間延べ利用者数 2,976 名 (2,789 名)

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
一日平均利用人数	14.0 名	12.3 名	11.5 名

月別利用者数（年間開所日数 243 日）

単位：名

	実利用者数	延べ人数		実利用者数	延べ人数
6 年 4 月	16	230	10 月	18	271
5 月	16	237	11 月	18	260
6 月	17	244	12 月	18	257
7 月	17	264	7 年 1 月	18	233
8 月	17	262	2 月	18	231
9 月	17	236	3 月	19	251
			合 計	--	2,976
			一日平均	--	12.3

(5) その他の事業（なでしこプラン）

ア 虐待障害者緊急受入れ事業

虐待を受けた障害者の緊急避難のため、短期入所サービスを提供する事業であるが、受け入れがなかった。

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
緊急受け入れ数	2 名	0 名	0 名

イ 少年院在院生奉仕活動受入れ事業

駿府学園（第1種・第5種少年院）が在院生の教育指導の一環として実施する地域奉仕活動の受け入れを行った。

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
奉仕活動受け入れ数	16 名	23 名	13 名

基本理念

私たちは、あなたと社会をつなぎ、あなたの自立生活を応援します。

令和6年度目標及び結果**目標1 利用者の意向を尊重し、各々が目指す自立を支援する**

- (1) 利用者ニーズに基づいた本人本位の個別支援計画の作成と目標に向けた支援。
- (2) 研修や勉強会、日々の業務で繰り返し学ぶ専門性を活かした支援。

結果 ・自立訓練は有期限のサービスであるため利用開始時から終了後利用者が思い描く生活を見据えた目標を設定し、日々の訓練提供等に努めた。

・6年度の研修についてはコンプライアンス、障害者差別解消法、虐待防止（人権、ハラスメント含）、義務化された業務継続に関する研修や訓練等主に施設内で実施し、延べ167名の職員が参加した。

目標2 安全で安心できる場の提供

- (1) 人権を尊重した対応、虐待防止の徹底。
- (2) 変化する自然災害と感染症に確実に対応していく。

結果 ・委員会や定められた研修、訓練の実施、対応に努めた。

目標3 地域に開かれた施設を目指す

- (1) 地域で開催する催しへの積極的な参加と施設で行うイベント等の広報。
- (2) 地域防災に参加し、災害時の協力体制を模索する。
- (3) 実習生やボランティアを広く受け入れ施設をアピールする。
- (4) 広報誌、ホームページ、『済生』への積極的な投稿。

結果 ・地域で開催される作品展に利用者の作品を出展、地域防災に参加するなど地域住民と顔の見える関係作りに努めた。

・事業所主催のヨガ教室には近隣住民、子育て支援センターからの親子参加、利用者家族の参加など幅広く受け入れ地域貢献に努めた。

・社会福祉士実習、看護学校実習、福祉体験、福祉教育等積極的に受け入れ地域に向けて事業所の周知に努めた。

・広報誌年3回の発行、ホームページへの掲載多数、『済生』への投稿に努めた。

目標4 経営の安定を目指す

- (1) 利用率の安定。
- (2) 利用者の意見を反映し、利用者満足度をさらに向上させる。
- (3) 広報活動の継続・病院等への営業を行い、認知度を向上させる。
- (4) 収支バランスを保つ。

結果 ・一日平均利用者数は機能訓練 10.1 (12.9)、生活訓練 7.1 (9.0) と令和5年度より低下し、目標数を満たすことができなかった。一番の要因は新規利用者数に対し抹消利用者数が上回ったことである（新規23名、抹消34名）。地域包括、リハビリ病院、相談支援専門員等へ営業、説明会の実施を試みたが今までの新規相談の傾向としては利用者を通じてすでに関わりのある相談支援専門員（法人内の相談事業所含む）からの問い合わせが多い為、今後は営業先の分析をしつつ、「ケアセンターの訓練をぜひ受けてい」と言われるように丁寧なサービスの提供や対応を継続していくことが大切である。

- ・満足度調査では全体的満足度は86%（84%）と昨年を若干上回った。ケアセンターでは満足度調査のほかに、月1回利用者からの意見、提案を募る場（ケアセンターサロン）のほか、3か月に1度実施するモニタリング時や、意見箱等を活用し常に利用者からの意見等を収集し意見があれば全職員共有し解決していくよう努めることができた。

目標5 指定管理の更新

- 結果** ・令和6年度指定管理者選定の結果、令和7年4月より5年間指定管理者として決定した。

静岡市心身障害者ケアセンターは、静岡市の指定管理者として自立訓練（機能訓練・生活訓練）を実施し、サービス支給期間が終了した後、継続利用を希望する方については、空席利用として日中一時支援事業を提供した。

指定管理期間5年目である令和6年度は、利用者のニーズに応えるべく理学療法士、作業療法士、あん摩マッサージ指圧師を配置し利用者の生活に即したサービスの提供に努めた。指定管理更新の手続きを経て令和7年度より5年間指定管理者として実施する運びとなった。

（１）障害福祉サービス事業・・・指

ア 自立訓練（機能訓練）（二種事業）（定員20名）

利用者が自立した地域生活を営むことができるよう、身体、生活能力の維持向上に必要な訓練、便宜等を適切かつ効果的に行うため、理学療法士、作業療法士等専門職による訓練を実施した。

区 分	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
一日平均利用者数	13名	10.1名	12.9名

月別利用者数

（年間開所日数243日）

機能訓練			機能訓練		
区 分	実人員(名)	延べ人数(名)	区 分	実人員(名)	延べ人数(名)
年 月			年 月		
6年4月	30	268	7年1月	25	183
5月	26	265	2月	23	171
6月	27	201	3月	26	220
7月	23	210	合 計		2,458
8月	23	188	月平均		204.8
9月	22	169	一日平均		10.1
10月	23	200			(12.9)
11月	24	187			
12月	21	196			

イ 自立訓練（生活訓練）（二種事業）（定員10名）

生活訓練の利用者は、地域生活や環境面での困難さを抱えて生活されている方等、障害特性による配慮の必要な方が利用された。

区 分	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
一日平均利用者数	10名	7.1名	9.0名

月別利用者数

(年間開所日数 243 日)

区 分		生活訓練		区 分		生活訓練	
年 月		実人員(名)	延べ人数(名)	年 月		実人員(名)	延べ人数(名)
6 年 4 月		20	133	7 年 1 月		14	133
5 月		20	140	2 月		13	131
6 月		20	160	3 月		12	140
7 月		19	158	合 計			1,728
8 月		18	153	月平均			144
9 月		16	141	一日平均			7.1
10 月		15	163				(9.0)
11 月		14	143				
12 月		14	133				

(2) 日中一時支援事業（公益事業）（空席利用）・・㊦

事前予約性にて自立訓練終了後、利用希望の方を受け入れた。

区 分	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
一日平均利用者数	2.0 名	2.5 名	2.1 名

別利用者数

(年間開所日数 243 日)

区 分		日中一時支援		区 分		日中一時支援	
年 月		実人員(名)	延べ人数(名)	年 月		実人員(名)	延べ人数(名)
6 年 4 月		10	50	7 年 1 月		10	47
5 月		10	54	2 月		10	48
6 月		10	52	3 月		10	49
7 月		10	56	合 計			609
8 月		10	53	月平均			50.8
9 月		10	50	一日平均			2.5
10 月		10	49				(2.1)
11 月		10	53				
12 月		10	48				

(3) 特定相談支援事業・障害児相談支援事業（二種事業）㊧

ア 障害者等相談支援事業

障害者生活支援センター城東は、身体障害を中心に在宅の障害者・家族の相談に関わり、必要な機関との連絡・調整を行い、支援を行った。

(ア)年間相談延べ件数 3,524 件 (内、ピアカウンセリング 131 件) (4,164 件)
年間相談延べ人員 892 名 (内、ピアカウンセリング 84 名) (925 名)

区 分	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
一日平均利用実人員	10 名	9.7 名	11.1 名

(イ)その他の活動 身体障害者生活支援事業 98 回 (110 回)
・社会資源を活用するための支援 (外出支援等) 52 回 (57 回)
・社会生活力を高めるための支援 (パソコン教室) 46 回 (53 回)
(ウ)参加会議 主催した個別支援会議 45 回 (73 回)
参加した個別支援会議 44 回 (61 回)
連絡調整会議等 26 回 (21 回)

イ 障害福祉サービス等の利用計画の作成（特定相談・障害児相談支援）

障害者生活支援センター城東は、静岡市の「指定相談支援事業所」として、障害福祉サービスの利用（身体・知的・精神）に関するサービス利用計画書及びモニタリングを作成した。

区 分	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
月平均サービス利用計画書 及びモニタリング作成件数	47 件	46 件	48.7 件

令和7年度より「障害者生活支援センター城東」は「静岡済生会療育センター 令和やさしい街に」と事業所を統合し、「相談支援センター済生会じょうとう」に改称し運営主体は静岡済生会療育センター令和になる。

（4）その他の事業（ソーシャルインクルージョン推進計画）

住民同士等が交流できる機会や場所を創出し、共に地域社会の構成員として支え合う。（近隣自治会等の協力を仰ぎながらのフラワーアレンジメント教室開催等）

フラワーアレンジメント教室は利用者からの希望がなかったため実施できなかったが、事業所主催のヨガ教室には、利用者以外に毎回5名程度の地域住民、子育て支援センターからの親子等も参加し開催することができた。

15 ワーク春日

基本理念

明るく楽しく働くあなたを応援します。

令和6年度目標及び結果（就労継続B型事業所）

目標1 経営の安定を図る

- ・利用者の気持ちに寄り添い、一人ひとりにあった就労時間を考え、通所日数を増やす。
- ・広報活動、営業に力を入れ、利用者数を増やす。
- ・軽作業では、企業への営業を行い、受注量を増やすことで、工賃の向上を目指すとともに経営の安定を図る。

結果 例年に比べ退所する方が2名と少なかったが、利用者の高齢化も進み、体調を崩す方や入院される方が多かったため、一日平均利用人数が増えなかった。

視覚障害者の方もデジタル化が進み、点字で広報誌を購読する方が年々減っている。軽作業の受注量や、点字印刷も広報誌以外の問い合わせは増えているが広報誌の点字印刷の減産分を補うことは難しい状況であり、工賃も5年度並みであった。

目標2 作業内容の検討

- ・利用者各自の能力を引き出し、できる作業を見極めていく事で、作業効率の向上を図り軽作業の受注量を増やす。
- ・点字印刷ができることを宣伝するとともに、広報誌以外の点字作業を請け負う。
- ・静岡視覚特別支援学校をアドバイザーとし、点字を利用した自主製品に取り組む。

結果 利用者各自の作業能力は高く、袋詰め以外の軽作業も請け負うことができていた。軽作業の種類は増えているが、全体の受注量は横ばい状態である。

静岡市以外からも点字関係の依頼がくるなど、点字印刷のできる施設として周知されてきた。広報誌の受注が減る中、今後も点字印刷ができる施設であることを宣伝していく。

静岡視覚特別支援学校の教職員からアドバイスをいただき、点字用紙を再利用した自主製品を作成。済生会フェアなどで利用者とともに販売することができた。

目標3 第三者評価の受審

- ・具体的な問題点を把握し、改善に努めるとともにサービスの向上や職員のスキルアップにつなげる。

結果 第三者評価を受審することで、事業所として取り組んできたことへの評価と見直しや、記録の整備が不足していることなどの改善点を知ることができた。今後も、継続的な改善への取り組みに努めるとともに、利用者サービスの向上を目指していく。また、職員の「接遇や傾聴のスキルは高い」との評価を得ることができ、さらなる職員のスキルアップへとつなげた。

目標4 環境整備

- ・産業医の指導の下、利用者が安全な場所で安心して働くことができるように環境を整える。

結果 作業の品物が多いため、作業室や廊下の整備を行い、利用者が安全な環境のも

と安心して働くことができるようにした。

災害時に、混乱なく避難ができるように環境を整備した。

(1) 就労継続支援事業B型（二種事業）（定員 30 名）

葵区、駿河区の障害者等相談支援事務局会議などで広報活動を行うことで、利用者登録数は増えたが、利用者の高齢化も進み、気候の変化などで体調を崩す方や入院される方もいたため、一日平均利用人数が増えなかった。

授産事業では広報誌以外の点字印刷の依頼も増えつつあり、軽作業も増えてはきているが、以前の県や市の広報紙の受注額を補うことは難しい。

	令和6年度計画・目標	令和6年度実績	令和5年度実績
一日平均利用人数	27 名	24.3 名	24.7 名
平均工賃月額	—	21,690 円	21,718 円

●月別利用者数

(名)

	利用 登録者数	新規 利用者数	退所者数	開所日数	利用延べ 人数	一日平均 利用者数
令和6年 4月	31	0	0	21	507	24.1
5月	31	0	0	21	501	23.9
6月	31	0	1	20	485	24.3
7月	30	1	0	22	508	23.1
8月	31	0	0	20	459	23.0
9月	31	0	0	19	447	23.5
10月	31	2	0	22	541	24.6
11月	33	0	0	20	495	24.8
12月	33	0	0	20	503	25.2
令和7年 1月	33	0	0	19	474	24.9
2月	33	0	1	18	442	24.6
3月	32	0	0	20	507	25.4
合計	---	3	2	242	5,869	24.3

●障害別利用者数（名）

令和6年4月1日～令和7年3月31日

		男	女	合計	(備考)
身体障害	視覚	2	6	8	知的との重複1名
	肢体不自由	12	3	15	
	内部	1	1	2	
知的障害		2	3	5	身体との重複1名
精神障害		2	2	4	
合 計		19	15	34	

(2) 福祉ホーム事業（二種事業）（定員 6 名）

6 年度の前半（4 月～11 月）は 5 部屋のうち、3 部屋の入居にとどまったが、現在は 4 部屋に入居している。

障害者等相談支援事務局会議では、興味を持たれる相談員の方も多く、今後必要であれば、福祉ホームで一人暮らしの練習をし、アパートなどでの生活にステップアップできるように支援していく。

	令和 6 年度計画・目標	令和 6 年度実績	令和 5 年度実績
一日平均利用人数	4.0 名	3.3 名	3.5 名

16 静岡済生会看護専門学校

基本理念

済生の精神にもとづき、対象となる人間を生命尊厳や個人が尊重されるかけがえない存在として捉え、それぞれの健康段階にある人に看護が実践できるような専門職業人を目指す。

令和6年度目標及び結果

目標1 看護師としての基礎的能力の育成と、済生の理念を基にした看護が実践できる学生を育成する

結果 学校の魅力の情報発信を工夫し、学生確保に努めた。また、看護師としての基礎的能力の育成とともに済生の精神を養い、個別性に配慮しながら講義・実習を積み重ねた。

目標2 看護師国家試験の全員合格を目指す

結果 教育目標に基づいた学年目標と年次の学びの積み上げを意識し、学習内容・方法を工夫して学生の学びの状況を踏まえた対応をした。結果、卒業生全員の看護師国家試験の合格結果が得られた。

目標3 講義・演習・実習へと学生自身が学びを継続し、深めるよう、講義内容を工夫する。また、教育目標を達成できるよう臨床と協働する

結果 臨地実習における学びは講義と関連づけられ、効果的な学習となった。また、学生が看護師として成長していく看護観を育む機会となった。臨地の協力も得て、教育目標に掲げた看護に必要な知識・技術・人間性を養うことができた。

目標4 教員の経験に応じた教育研修・臨床研修を行い、教育力の向上及び人材育成を図る

結果 教員不足は大きな課題であるが、チームで協力・対応していく中で各自の専門性を高めている。また、外部の研修参加、校内の研修計画を通じ、安定した教育を実践していくために教育力の向上に努めた。

目標5 新カリキュラムに対応し実践してきた教育内容について、改正趣旨・教育理念・目的に照らし合わせ、評価・改善を図る

結果 新カリキュラムで対応した学生が卒業していく中、学生は教育目的・目標を達成できたが、新カリキュラムの課題も明確になった。教育結果を継続的に検討し、効果的な学びへと改善できる対応を進めている。

(1) 学年別在籍者数（定員 120名）

区分	1年次生	2年次生	3年次生	計
令和6年度実績	40名	42名	27名	109名
令和5年度実績	43名	32名	34名	109名

(2) 看護師国家試験結果

(名・%)

	令和6年度実績			令和5年度実績		
	受験者数	合格者数	合格者率	受験者数	合格者数	合格者率
静岡済生会看護専門学校	25	25	100.0	34	34	100.0
全 国 (新卒者+既卒者)	63,131	56,906	90.1	63,301	55,557	87.8

※ 令和6年度 全国 (新卒者のみ) の合格率は95.9%

(3) 卒業生の進路

(名)

区 分	令和6年度実績	令和5年度実績
済生会総合病院	25	32
その他県内病院	0	1
県 外 病 院	0	1
進 学	0	0
そ の 他	0	0
計	25	34

(4) 入学試験結果

(名)

区 分		令和7年度	令和6年度
受験者	推 薦 入 試	27	27
	社会人入試	7	4
	一 般 入 試	38	47
	計	72	78
合格者	推 薦 入 試	23	25
	社会人入試	3	1
	一 般 入 試	30	34
	計	56	60
入学者	推 薦 入 試	23	25
	社会人入試	3	1
	一 般 入 試	15	14
	計	41	40

基本理念

障害や疾病を持ち、地域で生活している人々に対して、住み慣れた地域で安心して「その人らしく心豊かな生活」ができるよう、温かく思いやりの心で質の高い看護を提供します。

令和6年度目標及び結果**目標1 利用者の要望に沿い、安全、安心と信頼を得られる質の高い看護を提供する**

- ・所内での定期的な研修会企画・開催、外部研修・WEB研修・事例検討会への参加を促し、個々のスキルアップをめざす
- ・利用者とスタッフの安全を第一に考え、感染対策、医療安全の周知徹底を促す
- ・所内での事例検討やカンファレンスを定期的に行い利用者の情報や問題の共有・解決を図る
- ・介護サービス情報公表、インシデント、アクシデント報告の徹底を促す
- ・接遇、看護者の倫理綱領、コンプライアンスの周知徹底を促す

結果 今年度の報酬改定で、各種法令により義務付けられた「法定研修」と「質向上のための研修」を月毎に受講項目を決めて受講した。オンライン研修であるため、自分の空いた時間を利用しスタッフ全員が受講出来た。その他にも地域の訪問看護ステーションと事例検討会を行い、看護の振り返りや意見交換ができた。

また、他機関の主催する研修は、対面研修が増えたが個々に興味のある研修には自主的に参加した。年に一度行っている利用者満足度調査より、利用者や家族からの意見を訪問に生かせるよう、スタッフ間で情報共有に努め、統一した看護が提供できるように定期的に所内でカンファレンスを行った。

目標2 利用者・地域のニーズを知り、関係機関、多職種との密接な連携を図る。

- ・他機関、多職種との連携、同一法人においての多職種との連携を積極的に行う。
(サービス担当者会議、退院前カンファレンスへの参加など)
- ・利用者満足度調査実施、分析
- ・広報活動(毎月のおたより発行・年報の発行・出前講義など)
- ・看護学生、新任訪問看護師、ケアマネージャー等実習の受け入れ

結果 退院前カンファレンスや担当者会議の開催には積極的に参加し、多職種との情報共有及び連携に努めた。また、済生会病院や小鹿苑ケアプラン部との連携を密に取ることで、利用者にとっても、病院と連携が取れているという安心感に繋がった。その他に、災害時における連携体制として、市内の訪問看護ステーションで連携シートの作成を行い、定期的に話し合いを持った。

利用者・家族に向けて毎月「おしかだより」発行や関係機関に向けた年報の発行をした。今年度よりインスタグラムを始め、ステーションおしかの紹介や訪問看護についての情報発信をした。他にも地域施設等の依頼で手技指導や講演会に出向くなど、出前講座を行った。

看護学生の受け入れについては、毎年3カ所の学校の学生を受け入れている。学生指導については臨床指導者を中心にスタッフ全員で取り組み、各学校から高評価が得られた。また、今年度は県立大学の依頼でタイ国の大学から看護学生と大学教員の見学実習の受け入れも行った。

目標3 健全で安定した運営をめざす

- ・年間訪問件数 17,500 件（看護 13,000 件・リハビリ 4,500 件）を目標にする
- ・毎月の所内会議で実績統計をスタッフ全員に周知し評価をしていく
- ・残業時間の短縮、エコ活動で経費削減をめざす

結果 訪問件数がここ数年減少傾向であり、新規依頼は断らないとして依頼は受けてきたが、新規依頼と同人数、もしくはそれ以上の終了者があり、訪問件数の減少につながった。そして傾向として入院後の退院先に施設や療養型病院を選択するケースが増えた。また在宅にいても最期は施設で迎える利用者が増え、在宅看取り件数も減少傾向となった。それらの結果、年間訪問件数が 14,156 件となり目標訪問件数に対し約 3,344 件少なく達成率は 80.9%となった。毎月の会議で訪問件数、訪問の内訳と状況についてと個人の残業時間を提示し、その都度振り返りと対策を話し合った。対策の一つとして、地域包括や事業所への営業やチラシの配布をおこなった。

残業時間については、スタッフ全員が 1 か月の残業時間は 10 時間以内となり、継続できている。

目標4 職場環境の充実を図り、人材の確保に努める

- ・有休休暇を計画的に取得できるようにし、有給消化率をアップさせる
- ・当番明けの勤務について必要時調整
- ・心身の健康やワークライフバランスの充実を図るため職場環境を整える
- ・定期的な個人面接の実施

結果 スタッフの有休取得希望を聞き有休を取りやすい環境を作り、希望があれば連休も取れるようにした。また当番で夜間訪問があった時は翌日の勤務を半日または休みとし、心身を休めるようにした。

個人面接は定期的に行うとともに、必要時はスタッフに声掛けし随時個人面接を行いスタッフの意見や希望を聞いた。また必要時は産業医との面接に繋げ、産業医からアドバイスを受けた。スタッフの働き方について、家庭の事情等で見直しが必要になった際には、随時面接を行い、希望に沿いながら働き方の見直しを行った。

(1) 訪問看護事業実績

令和 6 年度は、介護保険、医療保険を含め訪問延件数は 14,156 件であり、令和 5 年度に比べ 744 件（介護保険 723 件減、医療保険 2 件増、その他 23 件減）減少。また訪問延件数のうち 5,385 件（5,473 件）は、サテライトみかど台分である。

令和 6 年度間目標件数 17,500 件

令和 6 年度実績件数 (達成率 80.9%)

介護保険延べ件数 11,115 件 (11,838 件)

医療保険 2,989 件 (2,987 件)

その他(実費訪問) 52 件 (75 件)

合 計 14,156 件 (14,900 件)

月平均 1,179.7 件 (1,241 件) 1 日平均 57.8 件 (61 件)

疾病別

令和6年4月1日～令和7年3月31日

病 名	人 員 (名)	構成比 (%)
神経系疾患	45	12.1
呼吸器系疾患	20	5.4
精神障害	14	3.8
脳血管系疾患	10	2.7
骨格系及び結合組織疾患	25	6.7
悪性腫瘍	82	22.0
その他	176	47.3
計	372	100.0

月別訪問者数

(年間訪問日数 245 日)

年 月	取扱実人員 (名)	延 件 数 (件)
6 年 4 月	235	1,259
5 月	231	1,253
6 月	233	1,173
7 月	227	1,250
8 月	233	1,205
9 月	232	1,174
10 月	232	1,280
11 月	231	1,180
12 月	229	1,147
7 年 1 月	225	1,094
2 月	223	998
3 月	223	1,143
計	2,754	14,156
月平均	229.5	1,179.7
一日平均		57.8

年齢別性別訪問者数

令和6年4月1日～令和7年3月31日 (単位：名)

年齢 性別	～ 59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 ～	合 計
男性	12	9	7	12	23	50	29	38	180
女性	9	7	4	11	16	31	38	76	192

	おしか	サテライト	合計
男性	116 名	64 名	180 名
女性	108 名	84 名	192 名
合計	224 名	148 名	372 名

(2) その他事業

グループホーム等への訪問看護：1施設と契約

入所中の方の状態が変化し終末期を迎えても、住みなれた環境であるグループホームで、最期まで生活が継続できるように支援することを目的として、グループホームと委託契約をしている。グループホームに週1回程度訪問し、入居者の日常的な健康管理及びグループホーム職員からの相談に対応した。

